日本獣医師会・獣医師倫理綱領

獣医師の誓い—95年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

1　動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。

2　人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。

3　良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。

4　獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。

5　相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める

社団法人日本獣医師会　第52回通常総会採択（1995年6月）

講　　座

下水疫学調査の社会実装に向けた取り組み

原本　英司

山梨大学国際流域環境研究センター

要　　約

2023年５月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上での分類が５類に移行して以降，従来の定点把握を補完するツールとして下水疫学調査の重要性が高まっている．筆者は，下水中の新型コロナウイルスの検出技術の高度化に取り組んできており，ウイルスを迅速かつ高感度で検出可能なリアルタイムPCR法や磁気分離濃縮法等を開発し，山梨県内での下水疫学調査の社会実装に貢献してきた．さらに，インフルエンザウイルスやノロウイルス，手足口病を引き起こすエンテロウイルス，病原細菌，薬剤耐性遺伝子等にも測定対象を拡大するとともに，複数種の遺伝子の同時検出・定量技術の開発等にも取り組んできている．これらの技術を活用することで，今後新たな感染症が流行した際に適切な対応を採ることができる下水疫学調査の実施体制の構築が進んでいくことが期待される．

キーワード：下水疫学調査，新型コロナウイルス感染症，濃縮法，リアルタイムPCR法

緒　　言

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上での分類が2023年５月に２類相当から５類へと変更され，本格的なウィズコロナ時代がはじまった．定点情報として毎週公表される感染報告者数のデータは「前の週の感染報告者数」であり，リアルタイム性は失われている．下水処理場の流入下水中の病原微生物を測定することで処理区域内の感染症の流行状況を把握する「下水疫学調査」（**図１**）は，

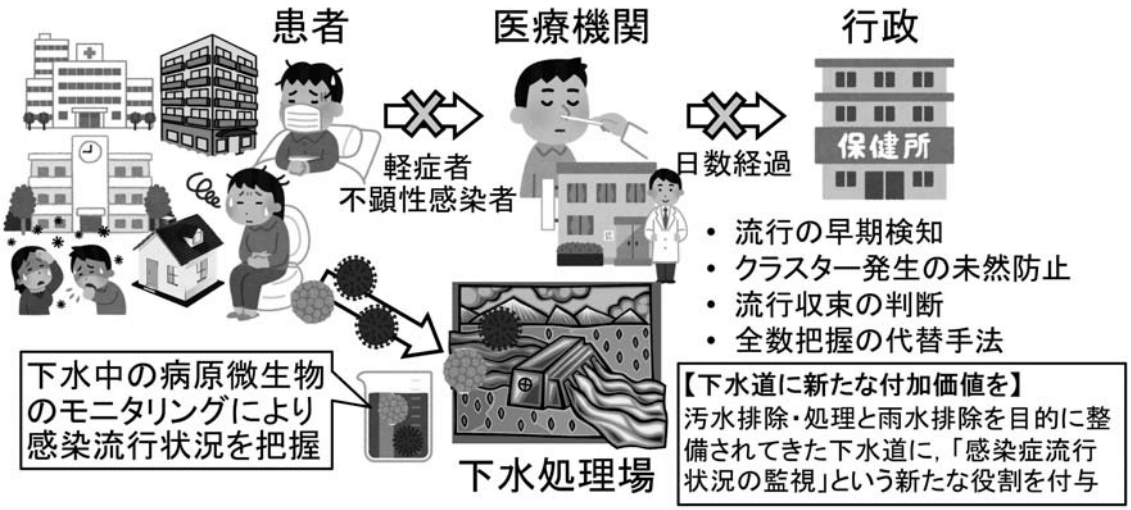


図１　下水疫学調査の概念図

このような状況下でこそ必要とされる技術であり，定点情報を補完するツールとして活用されていくことが期待される．

筆者は，COVID-19パンデミック当初より下水中の新型コロナウイルスの検出技術の高度化に取り組んできており，ウイルス検出法を構成する「濃縮」「遺伝子抽出」「遺伝子検出」の３つの工程それぞれを対象に，既存の検出技術の評価・最適化や新技術の開発を行ってきた．また，早くからウィズコロナ時代を見据えて研究を展開してきており，新型コロナウイルス以外の病原微生物の検出技術の開発にも取り組んでいる．本稿では，これまでの筆者の研究成果の一部を紹介する．

COVID-19に対する下水疫学調査の社会実装に向けた取り組み

ウイルス検出工程のうち，濃縮および遺伝子抽出工程では特定のウイルスを標的とした選択的な手法が採用されることは少ないため，遺伝子検出工程で特異性が高く，さらに感度の高い手法を用いることが重要となる．タカラバイオ社との共同研究により開発した「SARS-CoV-2 Detection RT-qPCR Kit for Wastewater」は，下水中の新型コロナウイルス遺伝子を迅速かつ高感度で検出可能な逆転写リアルタイムPCR（RT-qPCR）キットであり，反応に供する遺伝子抽出液量を増やし，新型コロナウイルス遺伝子の２領域（CDC N1およびCDC N2）を同一の蛍光色素（Cy5）で標識したプローブで増幅して検出することで，高感度でのウイルス検出を可能としている[1]．検出効率の評価に必要となる２種類のプロセスコントロールを同時検出するための試薬も含み，検出感度のみならず操作性も優れていることから，2023年６月に日本水環境学会と日本下水道新技術機構より公表された「下水中の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル　新技術マニュアル」にも本キットが登載されている[2]．

このキットを活用し，山梨県内での下水疫学調査に取り組んできている．2022年７月～2023年１月に実施した内閣官房による「下水サーベイランスの活用に関する実証事業」では，甲府市および山梨県衛生環境研究所と共同で，甲府市内の下水処理場において週２～４回の頻度で流入下水を採取し，新型コロナウイルスと当時流行していた変異株のオミクロン株を測定し，下水疫学調査の体制構築に取り組んだ．2023年度には，山梨県の事業へと発展させ，甲府市に加えて山梨県内の流域下水道も含めた県内の主要な下水処理場５ヶ所すべてを対象に，流入下水を週１回採取し，筆者の研究室で新型コロナウイルスの測定を実施した．2024年度以降は取り組みをさらに進め，本研究室から技術移転を行った山梨県衛生環境研究所が測定を担当する形で，５ヶ所の下水処理場のうち２ヶ所を対象に下水疫学調査を継続している．その際，より簡便・迅速な測定を可能とすることを目的に，筆者がJNC社と開発した磁性ナノ粒子を用いた磁気分離濃縮技術「Pegcision®法」[3]を濃縮法として採用することで，最短で数時間で測定作業を完了できる体制を構築している．現在広く用いられているポリエチレングリコール沈殿法等とは異なり，Pegcision®法は濃縮操作時に遠心分離機を使用しないことから，リソースが限られる発展途上国での活用も期待される濃縮法である．また，新型コロナウイルス以外のウイルスや病原細菌，薬剤耐性遺伝子の濃縮にも有効であり[4]，下水疫学調査の活用の幅を広げることにも貢献できると期待される．

2023年８月より，下水中の新型コロナウイルスの測定結果を，定点把握データと合わせて山梨県感染症対策センターのウェブサイト[5]で公開している（**図２**）．採水は原則として毎週月曜日に実施し，木曜日にデータを公表していることから，前週の月曜日から日曜日までの感染報告者数を集計している定点把握データと比較して，より直近の感染流行状況が下水データに反映されていると考えられる．

2023年11月～2024年２月には，冬季限定でA型インフルエンザウイルスとノロウイルスのデータも公表している．追加で病原微生物を測定する場合，新型コロナウイルスの測定に使用した遺伝子抽出液の残液を使用することができるため，時間・費用の負担増を抑えての測定が可能である．タカラバイオ社との共同研究を通じて，RSウイルスやノロウイルス，アストロウイルス，アデノウイルスF群，腸管系病原性細菌等に対するキットも販売している．

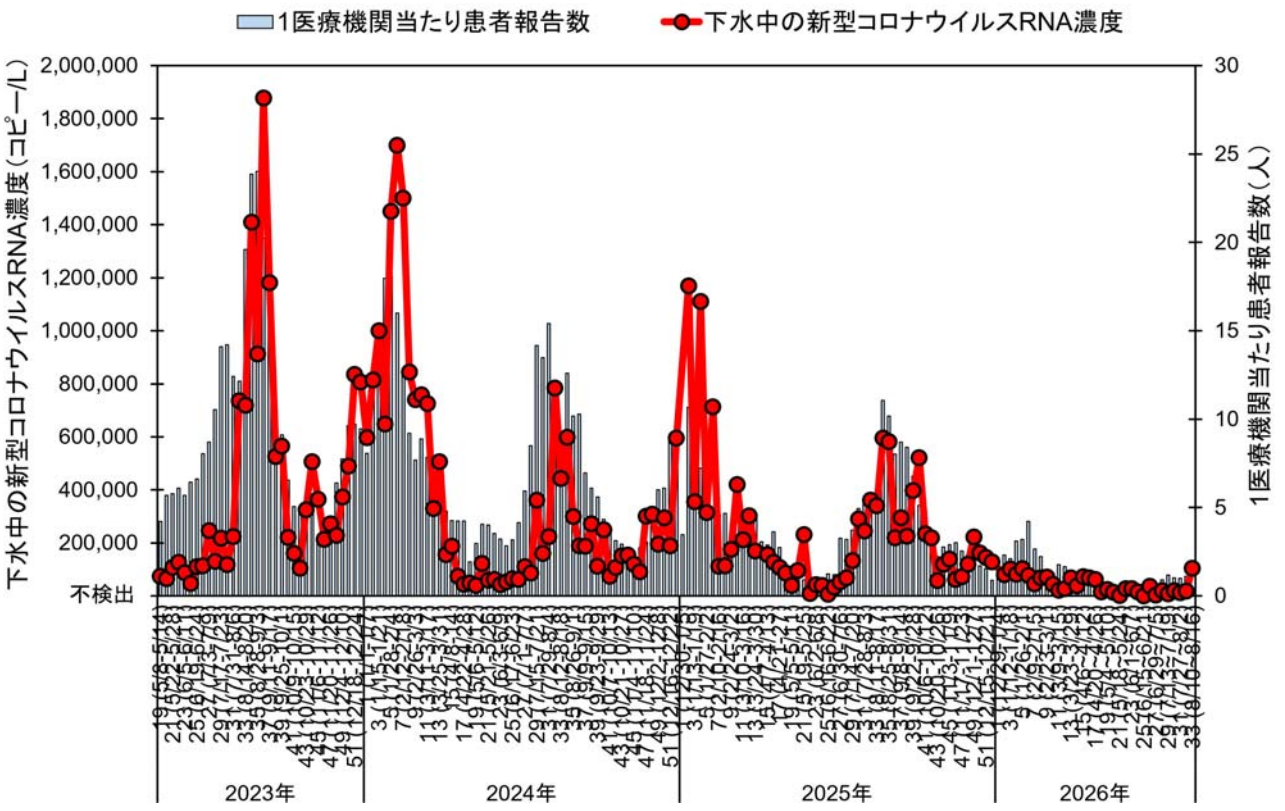


図２　山梨県における下水疫学調査の結果[5)]

ウィズコロナ時代における下水疫学調査の展開

下水疫学調査は，新型コロナウイルス以外の呼吸器系ウイルス（インフルエンザウイルス，RSウイルス等）や腸管系ウイルス（ノロウイルス，ロタウイルス等），さらには病原細菌（サルモネラ属菌，カンピロバクター属菌等）にも適用可能である．ここ最近，パンデミック下で抑制されていた様々な感染症の再流行が見られるようになってきており，下水疫学調査に期待される役割は大きい．例えば，主に乳幼児の間で夏季に流行する手足口病に対し，主要な原因ウイルスである４種類のエンテロウイルス（エンテロウイルス71型，コクサッキーウイルスA６・A10・A16型）の検出を下水処理場の流入下水から試みた結果，コクサッキーウイルスA６型が検出され，手足口病感染者の発生動向とよく一致していることが明らかとなった（**図３**）[6)]．また，「人食いバクテリア」とも呼ばれる劇症型溶血性レンサ球菌感染症を引き起こすこともあるA群溶血性レンサ球菌についても，下水中の細菌濃度とＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎感染者数との間に関連性が見られている[7)]．

このように，下水疫学調査の対象となり得る感染症は多数あるものの，種類が増えるほど個別に病原微生物を測定することが費用・時間等の点で負担となるという課題もある．通常のqPCRでは，複数種の遺伝子を同時検出する際に反応効率が低下し，十分な検出感度が得られないことがある．そのようなケースでは，エンドポイントで遺伝子の増幅の有無を判定することで，反応阻害等が生じた場合でも最終的に増幅されれば定量が可能となるという特徴を有するデジタルPCR法が有効となり得る．筆者は，ナノプレート型のデジタルPCR装置「QIAcuityデジタルPCRシステム」（QIAGEN社）を用い，下水中の新型コロナウイルス，A型インフルエンザウイルス，エンテロウイルスおよびノロウイルスGI・GIIの５種類の病原ウイルスを同時検出する系[8)]や，12種類の薬剤耐性遺伝子と指標遺伝子を下水中の存在濃度に応じた３組の検出セットに分けて検出できる系[9)]等を開発している．また，より多種類の病原微生物を検出したい場合には，集積流体回路内で試料とqPCR反応液の組み合わせを変えて混合してqPCR

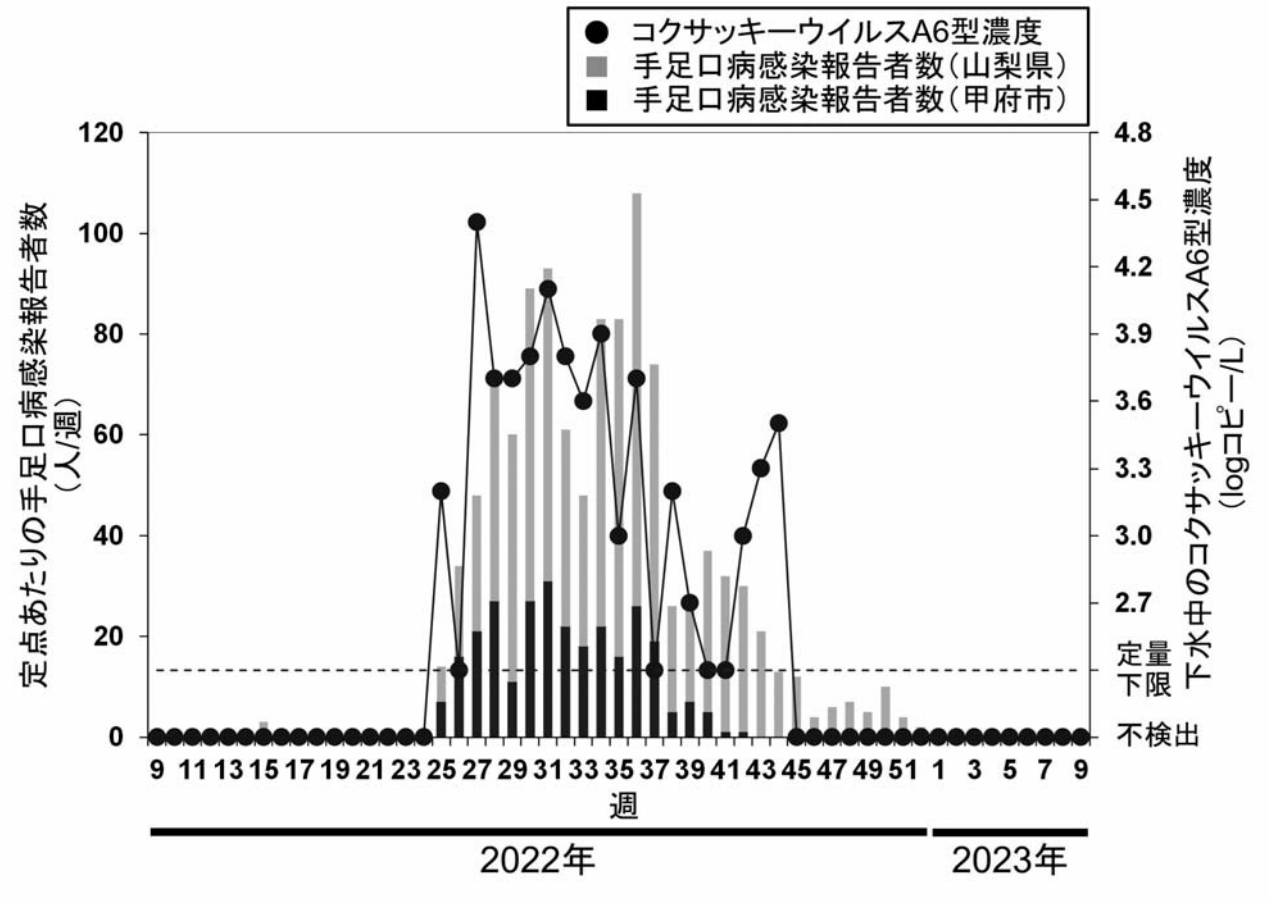


図３　手足口病への下水疫学調査の適用

を行うことで，最大96個の試料を96種類のqPCR系で測定可能なハイスループットqPCR装置「Biomark™ HD／X９システム」（Standard BioTools社）を用いることが可能で，下水中のウイルスや病原細菌，薬剤耐性遺伝子の一斉検出への適用実績もある[10,11]．

結　言

新型コロナウイルスを対象とした下水疫学調査は，内閣官房の実証事業等の成果を踏まえ，2024年度から国と地方自治体が連携して実施する感染症流行予測調査事業に追加された．これは，2013年度より実施されているポリオウイルスに続いてのものであり，これまでにポリオウイルスの測定経験のある地方衛生研究所（山梨県衛生環境研究所を含む）を中心に実施されている．地域住民の健康と安全に関する情報の発信は地方衛生研究所の重要な役割の一つであることを踏まえると，地方衛生研究所が下水疫学調査の中心的な担い手となることが望まれる．本稿で紹介したqPCR法やPegcision®法はキットとして販売されており，これらを活用することで，より多くの地方衛生研究所あるいは民間検査会社での下水疫学調査の導入が進むことを期待したい．また，新型コロナウイルス以外の病原微生物への対応も進めることで，将来新たなパンデミックが生じた際に適切な対策を講じることができるようにすることも重要である．

引用文献

１）Raya S, Malla B, Thakali O, *et al*.: Development of highly sensitive one-step reverse transcription-quantitative PCR for SARS-CoV-2 detection in wastewater, Sci Total Environ, 907, 167844 (2024)
２）日本水環境学会，日本下水道新技術機構：下水中の新型コロナウイルス遺伝子検出マニュアル 新技術マニュアル，https://www.jswe.or.jp/aboutus/pdf/SARS-CoV-2_RNA_Detection_Manual_for_Wastewater_2.pdf
３）Angga MS, Malla B, Raya S, *et al*.: Development of a

magnetic nanoparticle-based method for concentrating SARS-CoV-2 in wastewater, Sci Total Environ, 848, 157613 (2022)
4）村松歩佳, Bikash Malla, Sunayana Raya ほか : 下水中の病原ウイルス・細菌および薬剤耐性遺伝子へのPegcision® 法の適用, 第59回日本水環境学会年会講演集, p.830 (2025)
5）山梨県感染症対策センター : 下水サーベイランス, https://www.pref.yamanashi.jp/kansensho/gesuisa-beiransu.html
6）Shrestha S, Malla B, Haramoto E: Monitoring hand foot and mouth disease using long-term wastewater surveillance in Japan: Quantitative PCR assay development and application, Sci Total Environ, 901, 165926 (2023)
7）Shrestha S, Malla B, Haramoto E: Group A *Streptococcus pyogenes* in wastewater: Applicability of wastewater-based epidemiology for monitoring the prevalence of GAS pharyngitis during the late COVID-19 pandemic phase, Sci Total Environ, 928, 172447 (2024)
8）Malla B, Shrestha S, Haramoto E: Optimization of the 5-plex digital PCR workflow for simultaneous monitoring of SARS-CoV-2 and other pathogenic viruses in wastewater, Sci Total Environ, 913, 169746 (2024)
9）坂牧祐佳, Bikash Malla, 原本英司 : マルチプレックスデジタルPCRを用いた下水中の薬剤耐性遺伝子の定量法の開発, 土木学会論文集, 81(25), 25-25017 (2025)
10）Malla B, Thakali O, Shrestha S, *et al*.: Application of a high-throughput quantitative PCR system for simultaneous monitoring of SARS-CoV-2 variants and other pathogenic viruses in wastewater, Sci Total Environ, 853, 158659 (2022)
11）Shrestha S, Malla B, Haramoto E: High-throughput microfluidic quantitative PCR system for the simultaneous detection of antibiotic resistance genes and bacterial and viral pathogens in wastewater, Environ Res, 255, 119156 (2024)

短　報

肉用鶏で発生した鶏アスペルギルス症における病理学的所見

岸田　竜馬，後藤　庸，齋藤　拓海，大関　貴大，山梨　祐未

宮城県仙台家畜保健衛生所

はじめに

鶏アスペルギルス症は，*Aspergillus*属真菌の感染によって起こる真菌症で，主な病原体は*Aspergillus fumigatus*であり，*Aspergillus flavus*の分離率は低い[1)]．肉眼病変として，一般的に肺の灰白色の小結節あるいはび漫性の乾酪性病変，気嚢の肥厚や結節形成が認められる．呼吸器病変が進行すると肺内や体腔表面で分生子を形成することがあり，孵化後１～２日齢の初生ひなでも結節性病変を示すことがある[2,3)]．今回，典型的な肉眼病変が認められなかったが，病理組織学的検索の結果，鶏アスペルギルス症と診断した症例について，概要を報告する．

１　発生農場概要

本症例は，肉用鶏，レッドブロの５日齢，開放鶏舎平飼い（３鶏舎）で３万羽を飼養する農場での発生であった．鶏舎内敷料は，もみがらを使用していた．令和５年２月15日に３号鶏舎に9,200羽の初生ひなを導入後，18日に農場から家畜保健衛所（家保）に死亡羽数増加の通報があった．家保が農場に立入し，簡易検査により鳥インフルエンザを否定した．その後，20日に病性鑑定を実施した．導入日から10日間の累計死亡羽数は411羽であった．

２　病性鑑定

⑴　供試鶏

病理学的検査では，７羽（生存鶏５羽：№.１～№.５，死亡鶏２羽：№.６，７）を剖検に供した．なお，生存鶏の臨床症状としては，沈うつ（所見が認められた羽数／剖検羽数，以下同；２／５羽），開口呼吸（２／５羽）が認められた．体重は44.3±18.4ｇ（平均±標準偏差）であり，全検体が低体重であった．細菌学的検査では，生存鶏５羽の臓器（肝臓，腎臓，心臓，肺）および小腸内容物を用いた．また，ウイルス学的検査では，剖検に供した鶏の臓器（肝臓，腎臓，肺，気管，ファブリキウス嚢（Ｆ嚢））および気管並びにクロアカのスワブを用いた．

⑵　病理学的検査

臨床症状，外貌の観察および体重測定を行った後，剖検を実施した．剖検により全身の諸器官および諸組織から得た検査材料を10％中性緩衝ホルマリン液で固定した後，定法に従いパラフィン包埋，薄切を行い，ヘマトキシリン・エオジン（HE）染色，特殊染色（PAS染色，グロコット染色），家兎抗*Aspergillus*ポリクローナル抗体を用いた免疫組織化学的染色（№.３のみ）を実施し，病理組織学的に検索した．

従来，病性鑑定で観察する部位ⓐ［主に中鼻甲介とその周囲の鼻腔および眼窩下洞が観察される鼻腔（中部）**（図１－ロ）**］に追加して，その吻側となるⓑ［鼻腔（鼻孔周辺）（主に前鼻甲介とその周囲の鼻腔が観察される）**（図１－ハ）**］および尾側となるⓒ［鼓室周辺（主に眼窩下洞，食道および気管が観察される）**（図１－ニ）**］を切り出し，検索した．

⑶　病原学的検査

一般細菌検査として好気培養（５％羊血液寒天培地，DHL寒天培地，37℃，24～48時間），嫌気培養

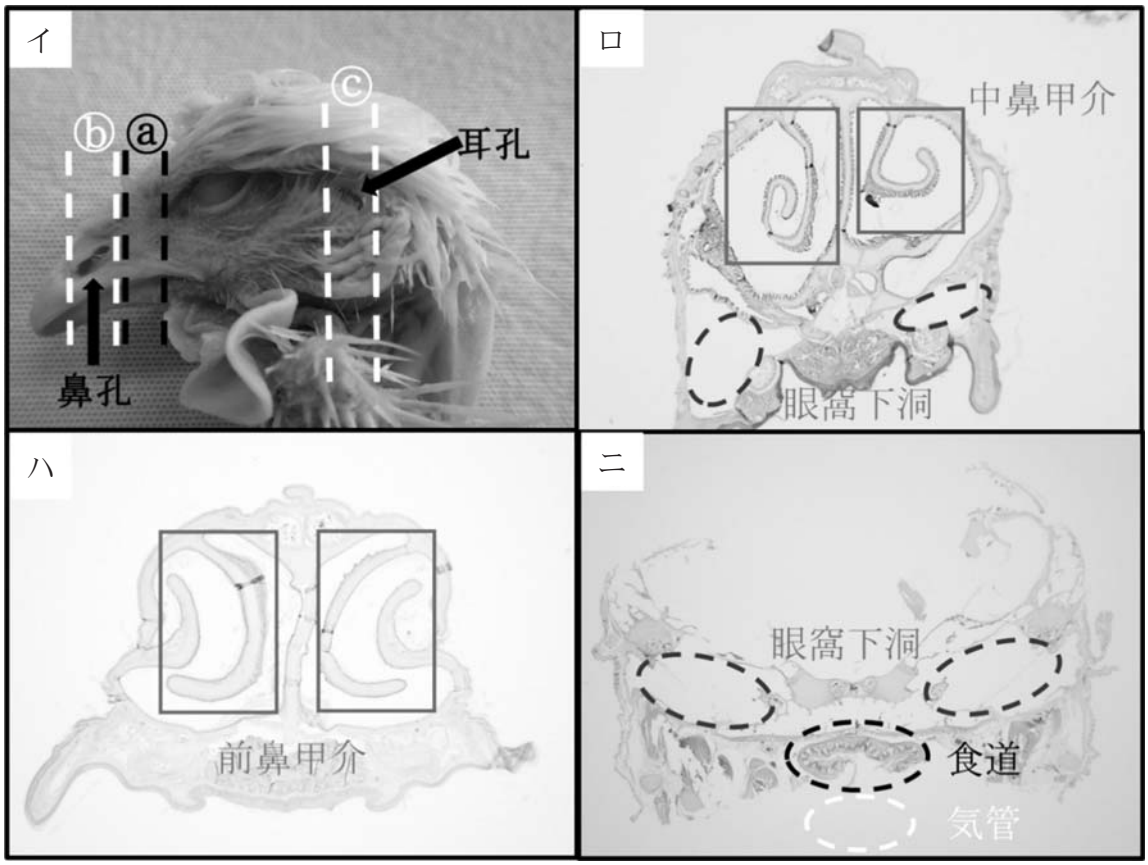


図１　採材部位および各部位のルーペ拡大像

イ）採材部位，ロ）ⓐ鼻腔（中部）（HE染色×10），ハ）ⓑ鼻腔（鼻孔周辺）（HE染色×10），ニ）ⓒ鼓室周辺（HE染色×10）

（５％卵黄加寒天培地，37℃，24～48時間），CO_2培養（５％羊血液寒天培地，37℃，24～48時間）を実施した．真菌検査では，肺を材料にクロラムフェニコール添加ポテトデキストロース寒天培地で37℃，７日間培養後，ラクトフェノール標本の観察を行った．遺伝子検査として，鶏病原性大腸菌（APEC）のO血清型別プライマーを用いた関連マルチプレックスPCR（O-genotypingPCR）を実施した．

ウイルス学的検査では，鶏伝染性気管支炎ウイルス，鶏アデノウイルス，鶏貧血ウイルス，伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス，伝染性喉頭気管炎ウイルスを対象としたコンベンショナルPCRを実施した．ウイルス分離として発育鶏卵尿膜腔内接種法および赤血球凝集試験を実施した．

３　病理学的所見

剖検所見では，主に胸腺の萎縮（５／７羽）およびＦ嚢の萎縮（３／７羽）が認められた．全検体で肺や気嚢において小結節や乾酪性病変などの肉眼病変は認められなかった．組織所見としては，肺では上皮細胞の変性（１／７羽），出血（６／７羽），充・うっ血（７／７羽），偽好酸球の浸潤（３／７羽），壊死（２／７羽）および真菌構造（１／７羽）が認められた．鼻腔では上皮細胞の変性（７／７羽），出血（１／７羽），偽好酸球の浸潤（２／７羽），壊死（１／７羽）および真菌構造（１／７羽）が認められた．気管では上皮細胞の変性（７／７羽），出血（５／７羽），偽好酸球の浸潤（４／７羽）および真菌構造（３／７羽）が認められた．

特殊染色において，PAS染色では肺で３／７羽，鼻腔で１／７羽，気管で２／７羽にPAS陽性像が確認された．また，グロコット染色でもPAS染色陽性検体に一致して，肺で３／７羽，鼻腔で１／７羽，気管で２／７羽に黒色に染色された真菌像が確認された．病理組織でみられたグロコット染色陽性像では，

Y字状の分枝および隔壁が認められた．これらの形態的特徴は*Aspergillus*属菌の形態的特徴と一致するものであった．免疫組織化学的染色では，*Aspergillus*属真菌抗原陽性像が確認された（**図２**）．

ⓑでは，偽好酸球の浸潤（４／７羽），真菌構造（１／７羽）が認められ，ⓒでは，偽好酸球の浸潤（２／７羽）が認められた（**表１**）．表１ⓑの部位に病変が認められた№３では，鼻腔内に粘液と細胞

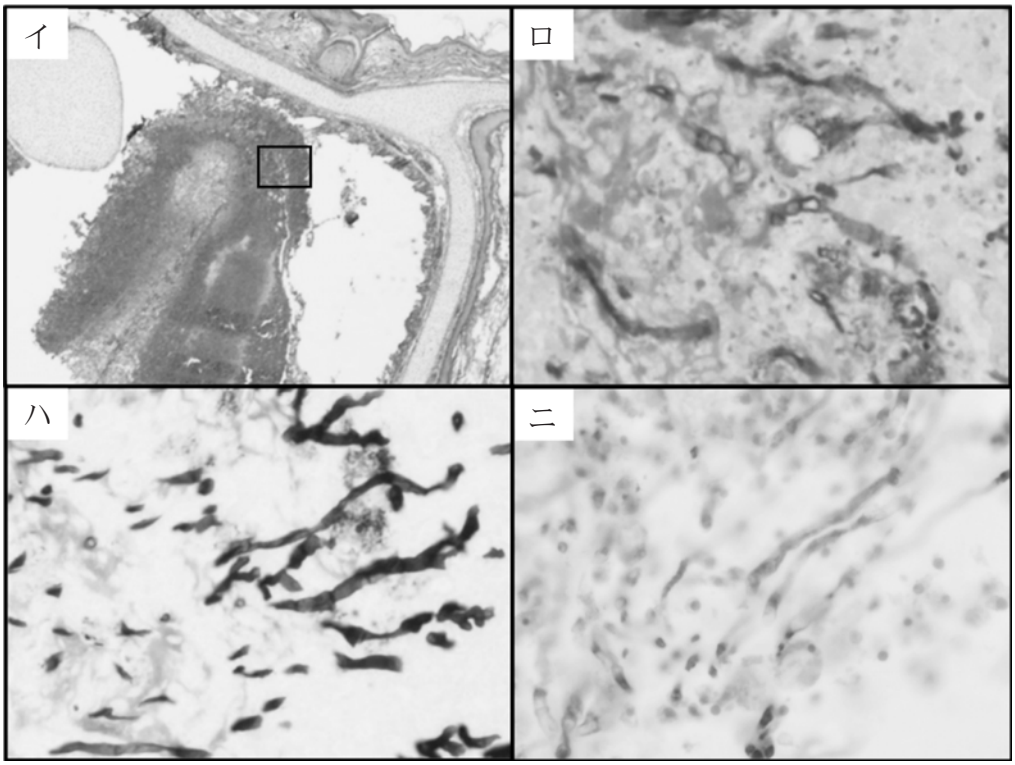


図２　鼻腔粘膜の各種染色像（№３）

イ）HE染色×100，ロ）PAS染色×600，ハ）グロコット染色×600，ニ）免疫組織化学的染色×600

表１　生存鶏と死亡鶏における真菌分離，病理組織学的所見および特殊染色所見

		生存鶏					死亡鶏	
No.		1	2	3	4	5	6	7
肺	真菌分離陽性	●	●		●	●	NT	NT
	偽好酸球浸潤or壊死				●	●		●
	真菌構造/特染陽性			-/●		-/●		●/●
ⓑ鼻孔	偽好酸球浸潤	●		●	●			●
	真菌構造/特染陽性			●/●				
ⓐ鼻腔	偽好酸球浸潤	●		●				
	真菌構造/特染陽性			●/●				
ⓒ周囲鼓室	偽好酸球浸潤	●					●	
	真菌構造/特染陽性							
気管	偽好酸球浸潤	●			●	●		●
	真菌構造/特染陽性	●/●			●/-			●/●

（●：所見が認められた個体、- or空欄：所見が認められない個体）

退廃物が混じる凝塊がみられ，その一部には複数の真菌様構造物が観察された（**図３－ロ**）．また，線毛上皮細胞の中等度肥厚と剥離，偽好酸球の浸潤が認められた（**図３－ハ**）．グロコット染色では，HE染色での凝塊と炎症部位に一致して，黒色に染色された真菌陽性像が確認できた（**図３－ニ，ホ，ヘ**）．

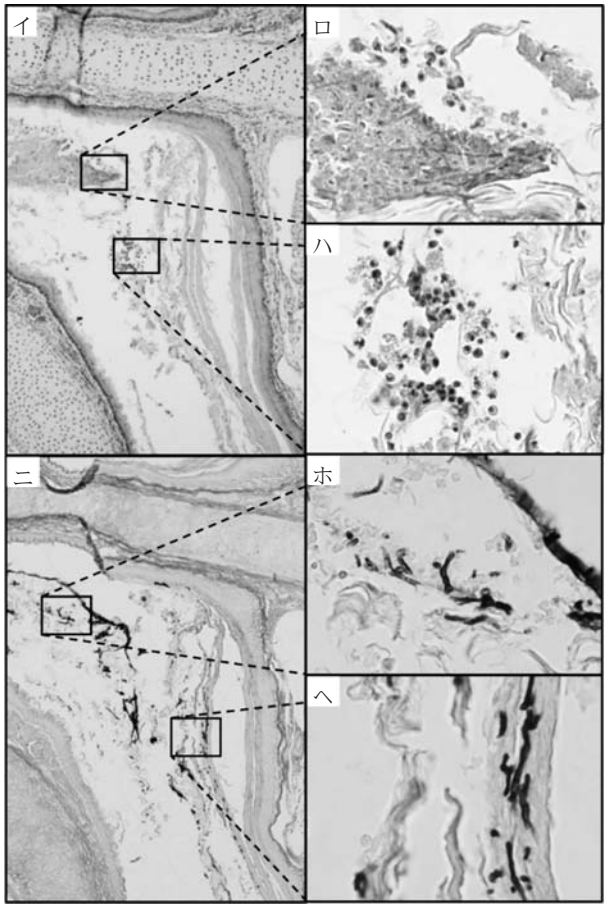


図３　ⓑ鼻腔粘膜（鼻孔周辺）の病変（№３）

イ）鼻腔内に認められた真菌様構造物および偽好酸球(HE染色×200)，ロ）真菌様構造物(HE染色×600)，ハ）偽好酸球の浸潤（HE染色×600），ニ）鼻腔内に認められた真菌陽性像（グロコット染色×200)，ホ）真菌陽性像（グロコット染色×600)，ヘ）真菌陽性像（グロコット染色×600）

４　病原学的検査所見

一般細菌検査で１／５羽（№２）の肺と腎臓から大腸菌（*E.coli* Og83）が分離された．真菌検査では，４／５羽の肺から真菌が分離された．分離された真菌は中心に青みがかった緑色を示すコロニーが観察された（**図４－イ**）．ラクトフェノール標本では，頂嚢の上半分に１層に並んだフィアライドとそこから分生子の形成が確認された（**図４－ロ**）．これらの特徴から分離された真菌を*Aspergillus fumigatus*と同定した．なお，ウイルス学的検査は全検体で陰性であった．

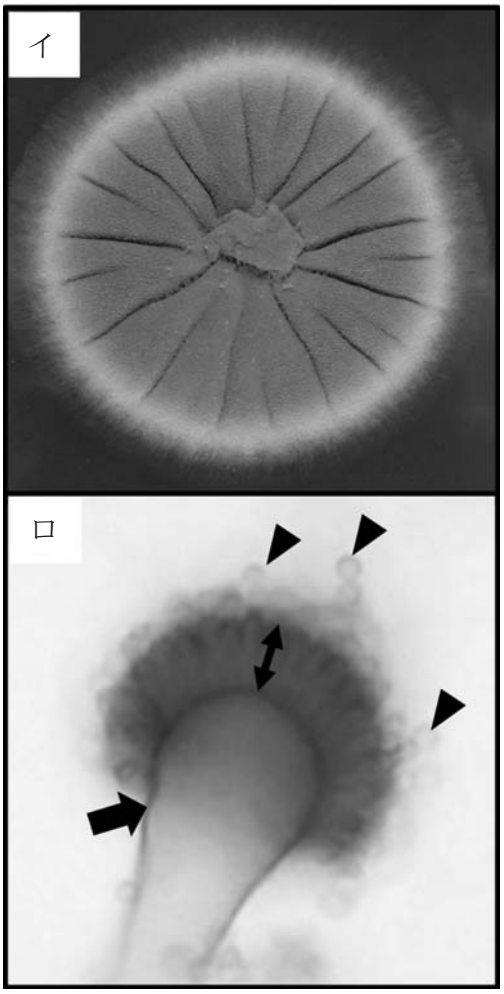


図４

イ）分離培養された真菌のコロニー
ロ）分離された真菌のラクトフェノール標本（1000×）
（矢印：頂嚢，矢頭：分生子，両矢印：フィアライド）

５　考察

本症例は病性鑑定による病理組織学的検査および病原学的検査の結果より，鶏アスペルギルス症と診断した．本症例では，全検体で肺および気嚢に結節や乾酪性病変などの典型的な特徴病変が認められなかった．また，№１～４において，病原検索による真菌分離結果と病理組織学的検査の特殊染色結果が異なったことや№１，３および７において鼻腔や気

管といった肺以外の器官で特殊染色陽性像が確認されたことから，より詳細な病理組織検索を行うことを目的として，真菌の侵入経路に沿うように，新たに組織を切り出し，標本を作製し観察した．その結果，全検体で肺，気嚢を含めた呼吸器に典型的な肉眼病変を認めず，組織学的に真菌構造を認めた検体であっても，炎症細胞が偽好酸球を中心とした病像であったことから，感染初期の急性症例であったことが示唆された．№３では，鼻腔（中部）でも真菌構造および特殊染色陽性像が認められたことから，真菌の胞子が鼻孔から侵入し，鼻腔（中部）を通過し，気嚢，肺へと至る過程で，一部胞子が鼻腔内の線毛上皮に捕捉され，定着し，粘膜内を中心に菌糸を形成したと考えられた．

剖検に供した個体は，病性鑑定マニュアルに記載されているような肺に灰白色の小結節あるいはび漫性の乾酪性病変，気嚢の肥厚および結節形成などの典型的な肉眼病変を示さなかった．また，№３のように真菌が分離陰性であっても，特殊染色で陽性を示す個体がみられるなど，真菌の分離状況と病変が必ずしも一致しない検体が確認された．さらに，鼻腔や気管など，肺以外の呼吸器においても真菌陽性像を確認できる個体がみられた．これらのことから，鶏アスペルギルス症を疑う症例において，一般的な肉眼的特徴病変が認められないような場合，診断の精度を高めるためには，鼻腔をはじめ上部気道を含めた広い範囲の病理組織検索が重要であると考えられた．

引用文献

１）谷村信彦：真菌症,家禽疾病学，鶏病研究会編，第２版，134-137，鶏病研究会，つくば（2022）
２）農林水産省消費・安全局：鶏アスペルギルス症，病性鑑定マニュアル，第４版，428-430，全国家畜衛生職員会，東京（2016）
３）Cheng Z,Li M,Wang Y, et al：Pathologenicity and imumune response of Aspergillus fumigatus infection in chickens,Front Vet Sci, 7 , 143（2020）
４）Tsai SS, Park JH, Hirai K et al：Aspergillosis and candidiasis in psittacine and passeriforme birds with particular reference to nasal lesions,Avian Pathol, 21, 699-709（1992）

症例報告

ホルスタイン種育成乳牛における瘤睛虫症の一症例

平山　匠[1,3,4*)]，福田　純子[2)]，加納　茂太[3,4)]，長田　桃佳[1,4)]，
関　まどか[5,6)]，大野　楽弥[5,6)]

１）宮城県農業共済組合　県北家畜診療センター　　２）宮城県　畜産試験場
３）宮城県農業共済組合　中央家畜診療センター　　４）宮城県農業共済組合　外科チーム
５）岩手大学　獣医学部　獣医寄生虫学研究室　　６）岩手大学　獣医学研究科
＊）宮城県中央家畜診療センター 兼 家畜診療研修所

はじめに

指状糸状虫は，牛，水牛，コブウシなどに寄生する線虫の一種であり，シナハマダラカ，トウゴウヤブカ，オオクロヤブカなどの蚊によって媒介される．一般的には腹腔内に寄生し，宿主に対して害を及ぼさないが，ヒツジ，ヤギ，ウマなどの非固有宿主においては幼若虫が前眼房や中枢神経系に寄生し，瘤睛虫症や脳脊髄糸状虫症の原因となり，稀であるがウシでも瘤睛虫症を発症させる[1)]．今回，ホルスタイン種育成乳牛における瘤睛虫症に遭遇し，全静脈麻酔による全身麻酔下での外科的摘出術により摘出後完治した．

症　例

宮城県で飼養されているホルスタイン種育成乳牛（11ヶ月齢）を供試した．左眼の白濁を主訴とし，初診時に角膜の白濁と眼球内に存在する虫体を認めた．第１病日にイベルメクチン外用剤を背線部に塗布後，角膜の白濁は軽度の改善が見られたが，第12病日においても眼球内の線虫は生存していたため（**図１**），第13病日に虫体の外科的摘出術を実施した．



図１　左眼球内にいる線虫
矢印は生存している線虫を示す

外科的摘出術

眼球運動の抑制を優先して全静脈麻酔下で行い，疼痛軽減のために眼瞼浸潤麻酔も併用した．術前にフルニキシン（２㎎／kg，フルニキシン注「meiji」：明治アニマルヘルス，東京）で鎮痛，キシラジン（0.05mg／kg，セラクタール２％注射液：エラン



図２　術後１日目（左）と９日目（右）の左眼球
術後１日目には角膜の白濁と潰瘍が見られるが，術後９日目には一部の炎症部位を除いて角膜の白濁は軽減した

コジャパン，東京）で鎮静，倒牛し，リドカイン２％注射液（キシロカイン注射液２％：サンドファーマ，東京）を眼瞼内への皮下注射と点眼で局所麻酔を行った．全静脈麻酔は，等張リンゲル糖-V注射液500mL（日本全薬工業，福島）にキシラジン84mg，グアイフェネジングアヤコールグリセリンエーテル25g（3-（o-メトキシフェノキシ）-1,2-プロパンジオール：富士フィルム和光純薬，大阪），ブトルファノール５mg／mL（ベトルファノール５mg：明治アニマルヘルス，東京）を溶解してトリプルドリップとした．投与速度は2.2mL／kg／hrに設定し，不動を維持した．

眼球が眼窩内に落ち込むので保持しつつ，眼球の３時方向，角膜縁から約５mmの部位を16G留置針（テルモサーフロー留置針16G：テルモ）の針先で穿刺切開したところ，眼房水が流出したが虫体は虹彩に捕捉され排出されなかった．そこで，３㎖の生理食塩水を満たした５㎖注射筒（トップシリンジ：トップ）に延長チューブ（ニプロエクステンションチューブ：ニプロ，大阪）を介して16G留置針の外筒を接続し，切開創から挿入，生理食塩水を１～２㎖ずつ，注入と吸引を繰り返す操作により前眼房内を灌流したところ，切開創から虫体が流出し，虫体の除去を完了した．

術後は術後感染予防としてテラマイシン眼軟膏（Pfizer Inc.,NY）を塗布した．術後１日目では眼球の白濁が進行したが**（図２左）**，術後９日目には限局した角膜肥厚が残っていたものの角膜の白濁は軽減し，経過は良好であった**（図２右）**．術後11日目には角膜の肥厚部位や白濁などの所見は消失し完治した．摘出した虫体**（図３）**は生理食塩水に浮遊し，岩手大学獣医学部共同獣医学科獣医寄生虫学研究室

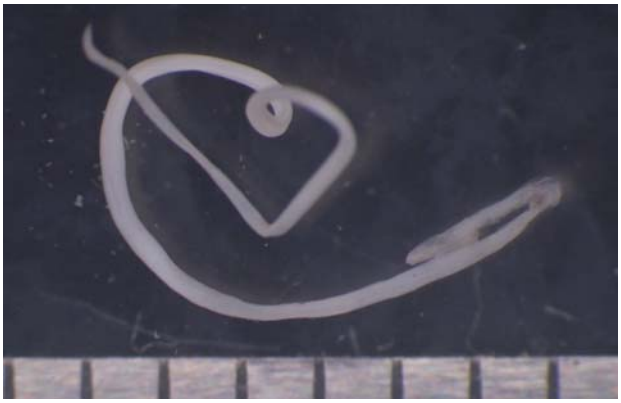


図３　摘出した虫体（図中の目盛は１㎜）
形態学的に糸状虫であると判明したが，頭部構造が保持されておらず，分類はできなかった



図４　DNA配列

上段が *Setaria digitata*（指状糸状虫）の陽性対照，下段が摘出した虫体のDNA配列で，100％一致していることを示している．

に送付した．ミトコンドリアDNAのCOI遺伝子解析の結果，田村ら[2]が報告した指状糸状虫の塩基配列と100％一致したため，指状糸状虫（*Setaria digitata*）と同定された（**図４**）．

考　察

ウシの糸状虫症に対する内科的療法として，旧来はジエチルカルバマジン，アンチモン剤，ヨードカリが用いられていたとの記載がある[1]が，近年における使用はまれであると考えられる．一方で，イベルメクチン注射薬の指状糸状虫への駆虫効果が検討されており，牛では200μg／kgの皮下注射による幼虫への効果[2]，200～500μg／kgの筋肉内注射による成虫への効果[3]が報告されている．しかし，血液房水関門の存在により，イベルメクチンの眼房水への移行は制限されると考えられる[4]．そして，死滅した虫体による炎症の継続も考えられるため，瀦睛虫症に対する内科的治療は適切ではないと考えられ，その他のウシの症例でも同様の報告が見られる[6～8]．今回の症例において，角膜の白濁は術後７日目に軽減しはじめ，術後９日目にはほぼ見られなくなった．術後管理としてテラマイシン眼軟膏を塗布したが，オキシテトラサイクリンは広域抗菌スペクトルの抗生物質であり，感染予防として期待できるほか，テトラサイクリン系抗菌薬にはタンパク質分解酵素阻害作用があり，角膜実質における潰瘍化抑制効果が期待され実際に応用されている[9]ため，本症例にも有効であったと考えられる．本症例は生後１ヶ月齢となる2024年12月と生後５ヶ月齢となる2025年４月でイベルメクチン外用剤を背線部に塗布されていたが，その後初診時の2025年10月までに塗布した実績はなかった．指状糸状虫を媒介する蚊の活動が活発になる夏季における駆虫を行っていなかったため，感染経路については，同居していた牛からの同年夏季の感染の可能性が推察された．

参考文献

1）板垣宏，大石勇：最新家畜寄生虫病学，第７版，224-229，朝倉書店，東京（2007）
2）田村倫也，庄野春日，北島ちひろ，ほか：外科的摘出により治療した小格馬における眼性糸状虫症の１例：産業動物臨床医誌，13(5)，206-212（2007）
3）Shirasaka S, Suzuki M, Endou G, *et al.*: Efficacy of ivermectin against Setaria microfilariae in calves and cerebrospinalsetariosis in sheep and goats, J Vet Med Sci, 56, 1213-1214 (1994)
4）Eslami A : Efficacy of ivermectin against Setaria digitata in cattle, J Vet Parasitol, 12, 58-59 (1998)
5）高島由季：網膜へのドラッグデリバリーの現状と課題，薬剤学，72，117-121（2012）
6）Mohan K, Ananda KJ, Shridhar NB, *et al.*: Corneal opacity due to Setaria digitata in a Jersey cross-bred cow and its surgical management, Vet World, 2(2), 69-70 (2009)
7）林　淳，郭　志宏，野中　成晃，ほか：黒毛和種子牛における瀦睛虫症の一例，家畜診療，61(3)，609（2014）
8）Verma P, Singh T, Mohindroo J, *et al.*: Ocular setariasis in a cow and its surgical management. Vet Pract, 17(1), 93-95 (2016)
9）Ralph RA: Tetracyclines and the treatment of corneal stromal ulceration: A review, Cornea, 19(3), 274-277 (2000)

破折により根尖周囲病巣を認め，歯科治療を実施したカリフォルニアアシカの２症例

中田　朋孝[1)]・田中　悠介[2)]

１）ぽらべあ動物病院　２）仙台うみの杜水族館

要　約

国内の水族館で飼育されているカリフォルニアアシカ（*Zalophus Californianus*）２症例に破折，露髄が原因と考えられる内歯瘻，外歯瘻がみられ，全身麻酔下で歯科X線検査を実施したところ，下顎切歯，犬歯，上顎前臼歯，後臼歯領域にそれぞれX線透過性亢進領域を確認したため根尖周囲病巣と診断した．臨床症状と併せて抜歯適応歯を抜歯し，歯肉粘膜フラップを作成して閉創したが２症例ともに術後７日以内で離開がみられた．２症例のうち１症例は二期癒合により閉鎖したが，他の１症例では，完全な閉鎖が確認できずフラップの設計や作成方法，術後管理などに課題が残った．

キーワード：カリフォルニアアシカ，破折，根尖周囲病巣，骨性癒着，歯肉粘膜フラップ

はじめに

カリフォルニアアシカはアシカ科に属する鰭脚類の一種で，北米大陸西海岸に生息し，比較的飼育管理，馴致しやすいことから国内の動物園，水族館で広く飼育されている．古くからカリフォルニアアシカには歯科に関するトラブルが多く[1)]，常同行動などでディスプレイ用の擬岩やプールのコンクリートの床や壁を咬むことにより引き起こされる咬耗や破折が主な原因である[2,3)]．今回，破折が原因で内歯瘻，外歯瘻が認められたカリフォルニアアシカを治療する機会を得たので経過と併せて報告する．なお，アシカ科の永久歯は，切歯３／２，犬歯１／１，前臼歯４／４，後臼歯２／１の計36本存在する[4)]．獣医歯科において国際的に歯列は３桁の数字で示されるトライアダン変法[5)]で表記され，本稿もこれに基づいて表現した．

症例１

カリフォルニアアシカ，雌，17歳３ヶ月齢，体重57kg，国内血統登録番号741，愛称ノイ，仙台うみの杜水族館の飼育個体（**図１－ａ**）．

既往歴

11歳８ヶ月齢ごろから左下顎舌側歯肉付近，左下顎腹側皮膚から排膿がみられたため，抗菌剤による内科的治療を開始した．

経　過

304舌側歯肉付近及び左下顎腹側皮膚付近から間欠的な排膿（外歯瘻，内歯瘻）がみられるとの主訴で，口腔内検査及び抜歯を含めた歯科治療を目的に全身麻酔下での処置を実施した．口腔内臨床所見は，104，204，304に破折がみられ，特に304は歯冠部分

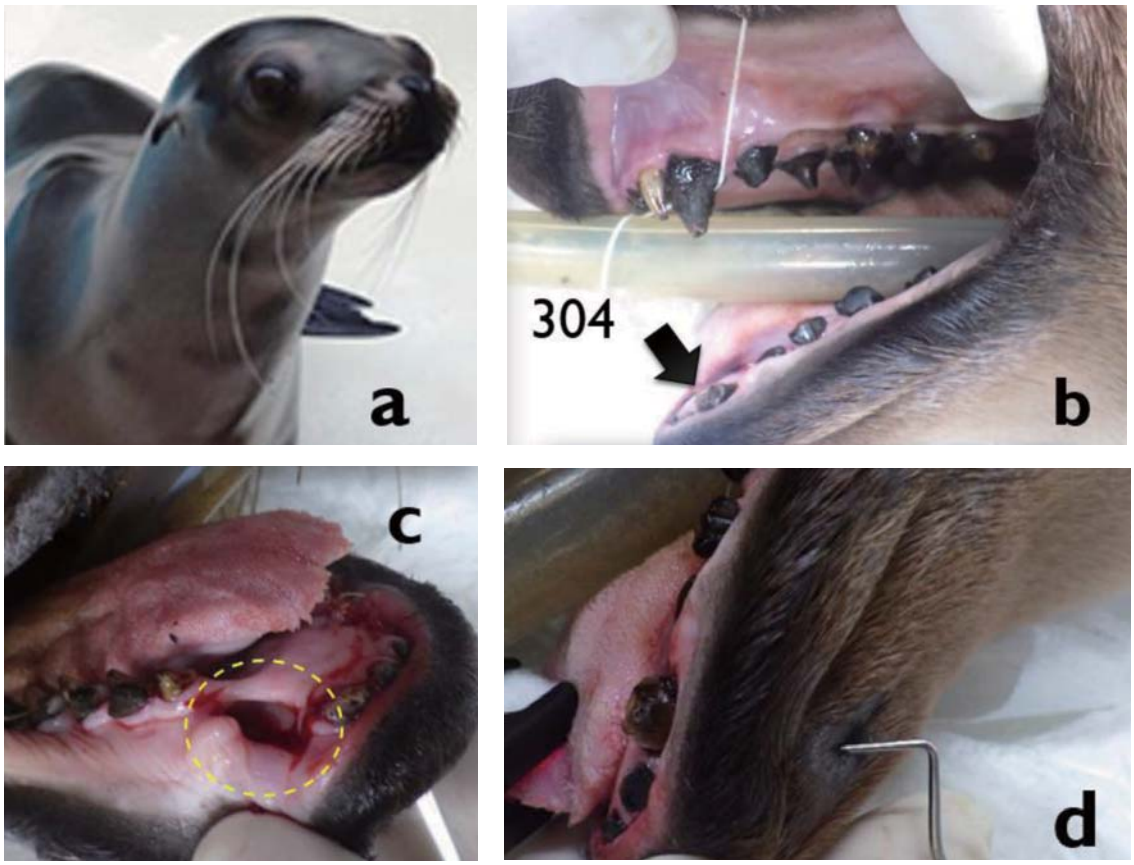


図１　術前の肉眼所見（症例１）

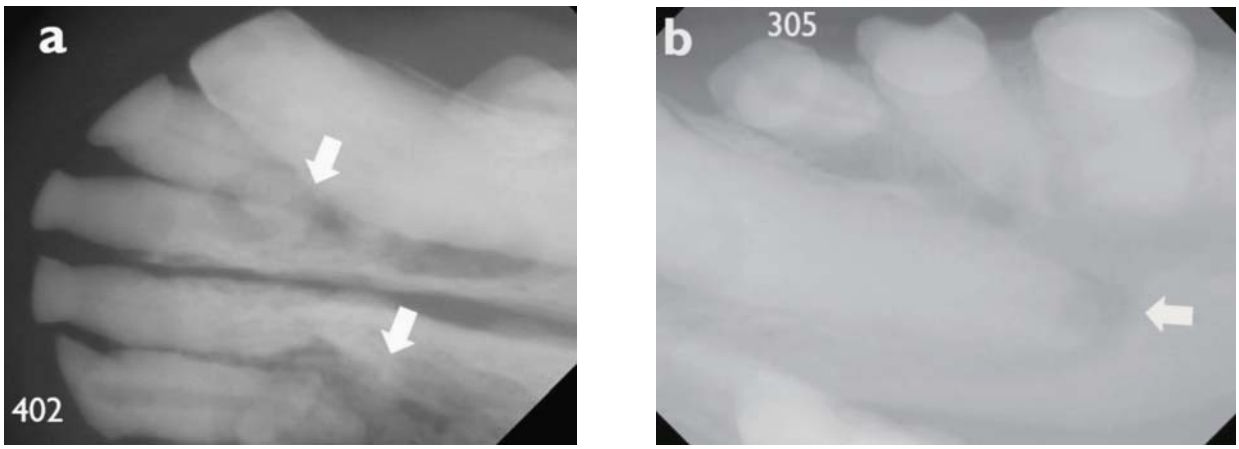


図２　歯科X線像

の約２／３が欠損し，露髄もみられ（**図１－ｂ**），左下顎腹側の皮膚には，腹側の皮膚にはプロービングにより302根尖にまで達する瘻孔が認められた（**図１－ｄ**）．また206，404は解剖学的欠歯で，特に404周囲歯槽骨と下顎骨の一部が欠損していた（**図１－ｃ**）．また302，402に動揺がみられ，105，106，305，306，307，308，309，405，406に咬耗がみられた．歯科X線像より，305，402に歯髄腔拡大像がみられ，302，304，402に根尖周囲のX線透過性亢進像が認められたため（**図２－ａ，ｂ**），これら３歯を根尖周囲病巣と診断した．臨床所見と併せて抜歯適応歯を検討し，最終的に302，304，402を抜歯した．抜歯窩は歯肉粘膜フラップを作成し，粘膜を可能な限り減張させて閉創した．その他の歯については，予防歯科処置を実施した（**図３**）．また，405-６根尖に歯冠が腹側に位置する埋伏歯がみられたが，根尖

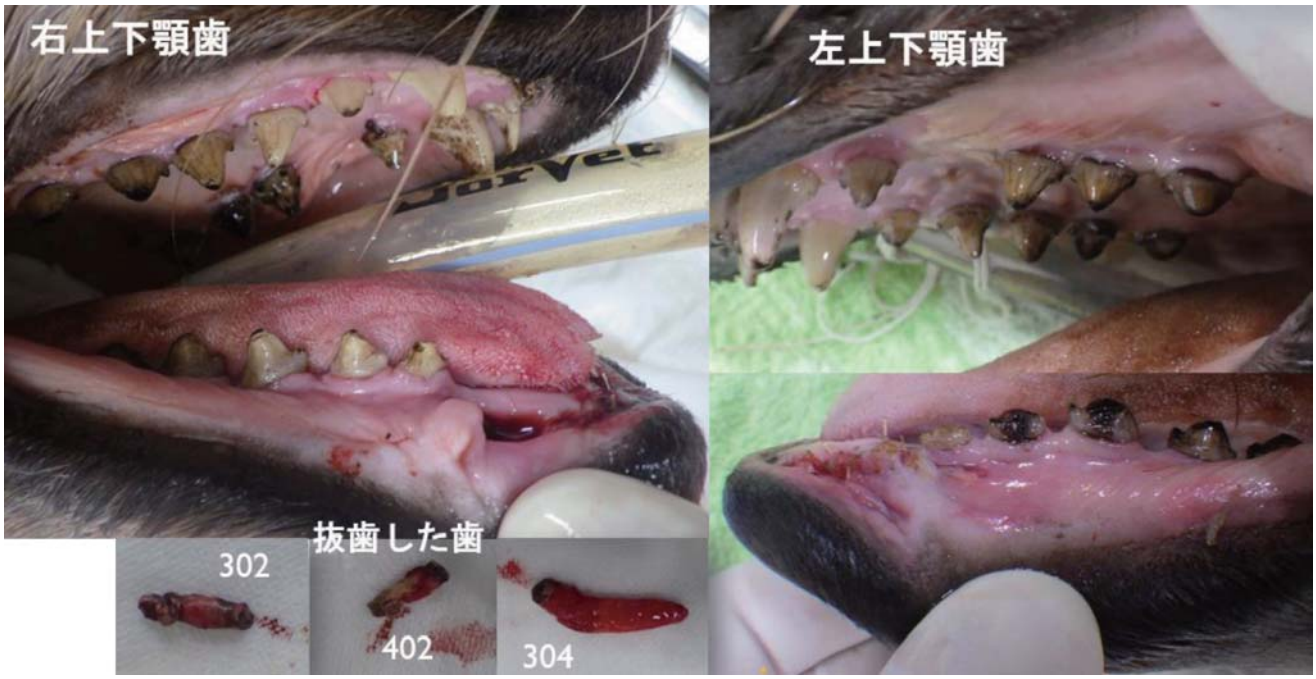


図３　術後の肉眼所見

周囲病巣を認めなかったため無処置で経過観察とした（**図４**）.

術後は，縫合面の保護のため水槽への入水制限や餌のサイズ調整などを実施し術創保護に努めたが，術後７日，302付近でフラップの離開を認めた．しかしながら，術後30日で二期癒合により肉芽の形成がみられ，術後180日で上皮化を確認した.

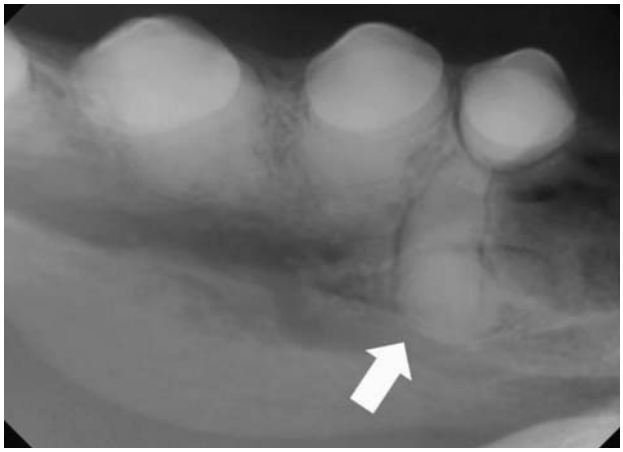


図４　埋伏歯

症例２

カリフォルニアアシカ，雄，20歳５ヶ月齢，体重124kg，国内血統登録番号712，愛称アンディ，仙台うみの杜水族館の飼育個体（**図５－ａ**）.

既往歴

５歳４ヶ月齢，歯周炎のため全身麻酔下で404, 405, 406，407を抜歯した.

19歳６ヶ月齢，306付近からの排膿がみられ，抗菌剤による内科的治療を実施した.

経　過

306周囲で間欠的な排膿（内歯瘻）がみられるとの主訴で，症例１と同様，精査と処置を目的に全身麻酔下にて歯科Ｘ線を含めた口腔内検査と歯科治療を実施した．口腔内臨床所見は，110, 210, 404, 405, 406, 407に欠歯，103, 104, 107, 108, 109, 203, 204, 207, 208, 209, 305, 306に破折，101, 102, 201, 202, 301，302に咬耗，209に動揺がみられ，特に104は露髄と歯肉後退が認められた（**図５－ｂ，ｃ**）．歯科X線検査では，103，104，203，206，302，402に歯髄腔の拡大像（**図６－ａ，ｂ**），103, 105, 203, 206, 209に根尖周囲のＸ線透過性亢進像（**図６－ａ，ｂ，ｃ**），402に歯根破折，407付近に残根が認められた．以上のX線画像所見より103，105，203，206，209を根尖周囲病巣と診断した．臨床所見と併せて抜歯適応歯を検討し，最終的に103, 104, 105, 203, 206,

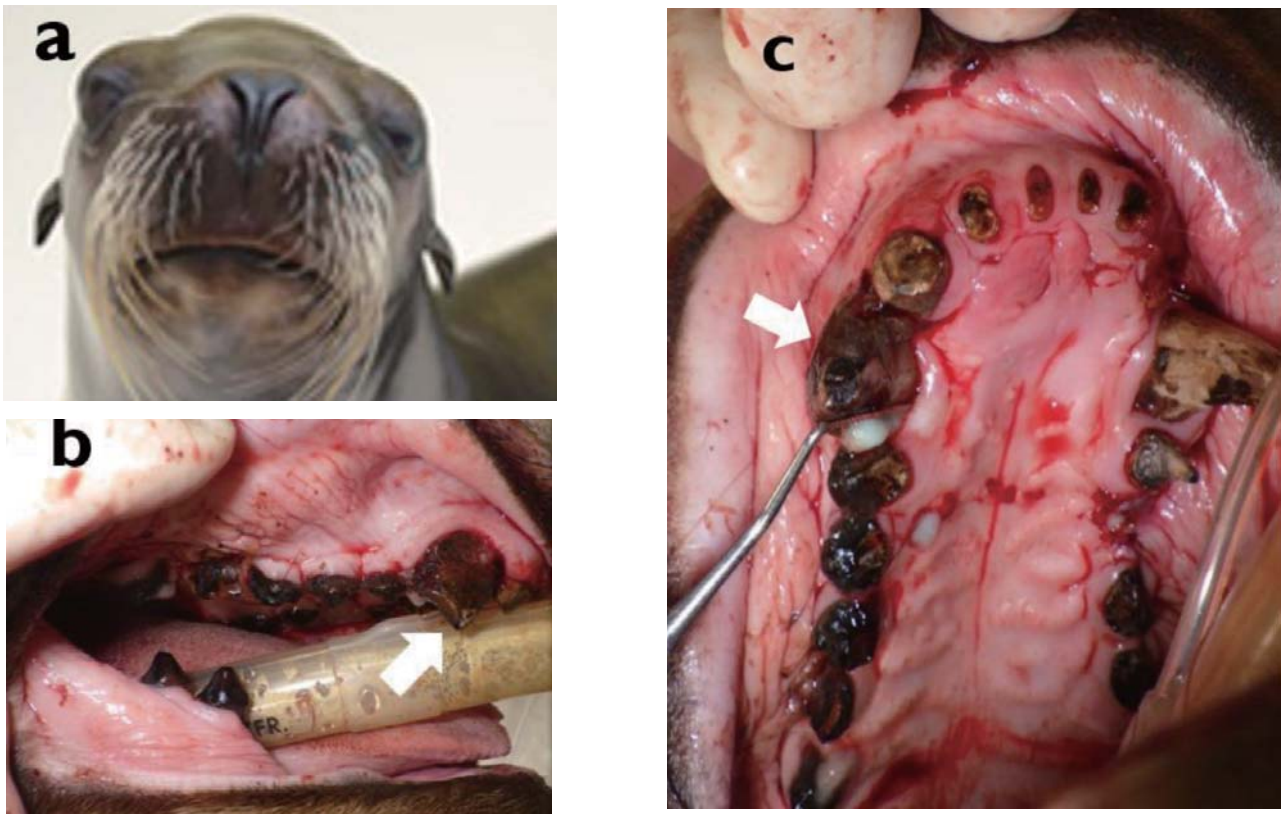


図５　術前の肉眼所見（症例２）

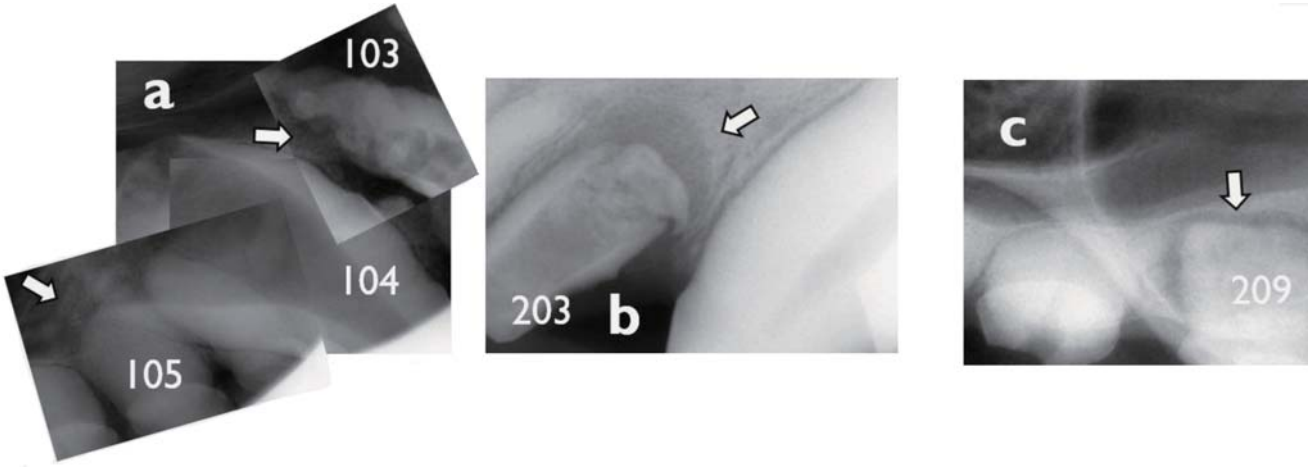


図６　歯科X線像

209, 302, 402を抜歯した（**図７－ｃ**）．抜歯窩は歯肉粘膜フラップを作成して閉創した（**図７－ａ，ｂ**）．なお，104歯根は頬側での歯槽骨との癒着が著しく最終的に歯冠切除して閉鎖した．その他の歯については，予防歯科処置を実施した．術後は，症例１と同様に術創を刺激しないように管理したが，術後５日に104縫合面の離開がみられ，術後12日に完全に離開した．術後68日で創面の収縮がみられたが，完全な閉創には至らなかった．

結　果

症例１，２の処置内容を**図８**に示す．

考　察

カリフォルニアアシカの破折は，野生下では主に

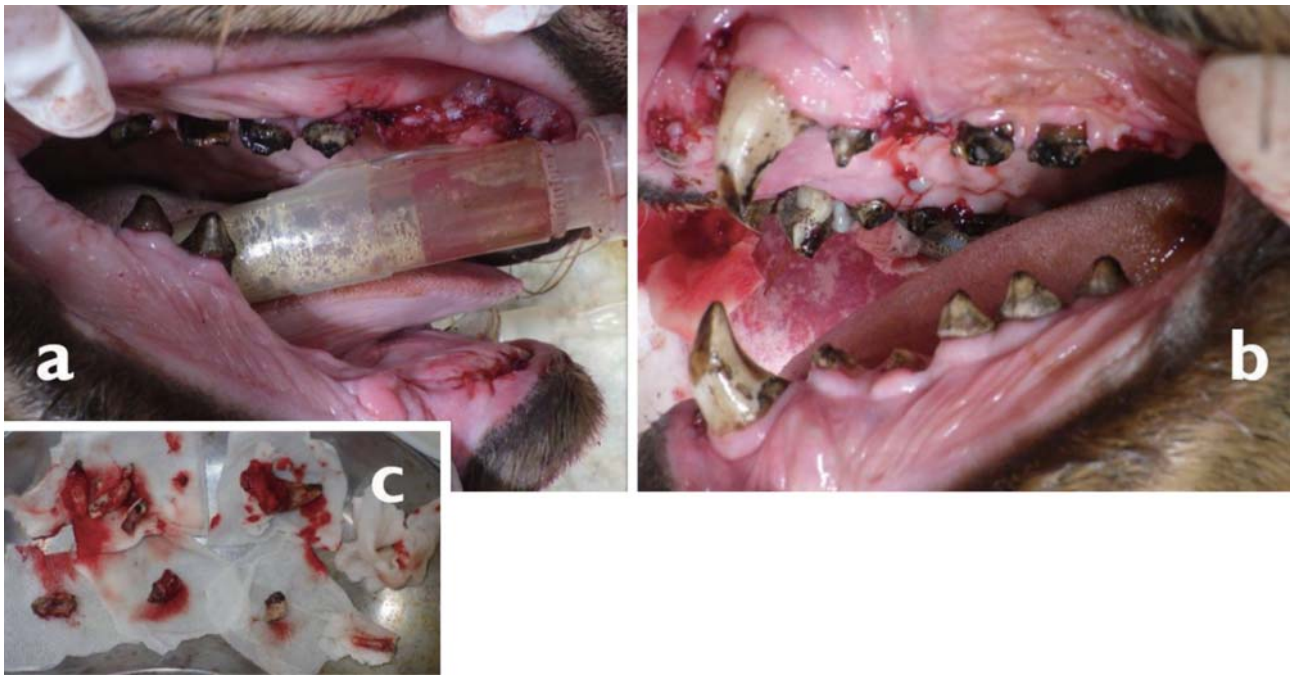


図７　術後の肉眼所見

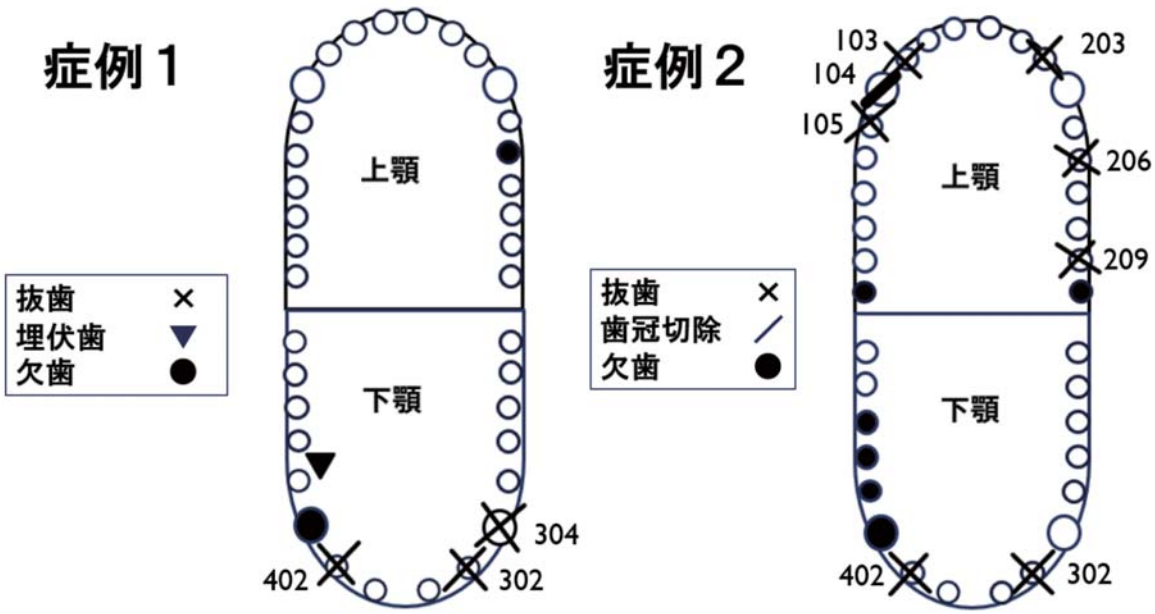


図８　各症例の処置内容

オス同士の闘争や貝など固い獲物などを捕食した際に起こると考えられている[6]が，飼育下ではケージや柵，コンクリートなどを咬むことによって発生し，その結果根尖周囲病巣を発症すると考えられる．国内，海外の施設で同様に治療を行なった報告はある[7,8]が，いずれも抜歯が行われており，今回の２症例においても抜歯が妥当であったと考えられた．その理由として，経過が長く，根尖周囲病巣も形成されており歯の保存の適応外であったこと，仮に保存適応であったとしてもアシカ科の犬歯は根尖が約10年間は開放したまま発育し続けるため，根管治療の成功率が著しく低くなること[9]，根管治療では必須となる頻繁な麻酔が難しいことなどが挙げられた．

症例１において，304は，内歯瘻と外歯瘻を起こしていたと考えられ，根尖周囲病巣の影響で歯周組織が全周で崩壊していたため，比較的容易に抜歯で

きたと考えられるが，症例２の104は根尖が開放しており，また頬側の歯根膜腔が消失していたため抜歯が非常に困難であった．これは，頬側の歯根膜と歯槽骨が骨性癒着を起こしていることが考えられ，エレベーターなどの抜歯器具が挿入できない状態であった．実際，歯根膜剥離用チップ（バリオスチップG90S@ナカニシ）を用いて少しずつ歯根膜を剥離し，形成された間隙にエレベーターを挿入し抜歯を試みたが，完全に抜歯するのは困難であったため，最終的に残った歯根を可能な限り切削して閉創した．今回のようにカリフォルニアアシカの抜歯時に，骨性癒着が認められた場合，根尖周囲病巣がないことが確認できれば早い段階で歯冠切除に切り替えることも麻酔時間の短縮や医原性骨折などのリスク回避などに有効と考えられた．いずれの症例に関しても術後５，７日の早い段階で歯肉粘膜フラップの離開がみられている．原因として，フラップの設計不良，減張不足，皮弁内の血流不足，縫合面のトリミングや脱上皮不足などの術者の技術的な問題[10, 11]，猫同様粘膜が硬く，伸展させにくいにも関わらず，使用可能な頬粘膜が狭いなどの生体側の問題，小動物領域では通例の保護具での術創管理が難しいなどの術後管理の問題[12] などが考えられる．小動物領域の方法がそのまま外挿できるとは限らないが，今後の治療成績を少しでも向上させるため応用できる点は工夫して実践することが重要である．症例１の埋伏歯に関しては，偶発所見で嚢胞の形成がみられないこと，麻酔時間や症例への侵襲性などを考慮して今回は無処置としたが，定期的なモニターによりその後の挙動を確認する必要がある．

国内で飼育されている動物園水族館の希少動物は，犬猫などの小動物領域に比べて情報量が少なく，ハンドリングや麻酔の難しさ，設備的な問題などから，積極的な歯科診療が実施されていないのが現状である．課題は多いものの，今後も他園館や専門医との協力体制や連携を強化し，適応症例に最適な治療が提供できるよう努力したい．

１）勝俣悦子：鰭脚類の病気，新飼育ハンドブック水族館編，第１版，183，社団法人日本動物園水族館協会，東京（1995）
２）多田佳奈世，堀井ひとみ，北原融：カリフォルニアアシカに見られた歯牙疾患について，第35回海獣技術者研究会抄録，16-23（2011）
３）Gulland FM，Haulena M，Dierauf LA：Seals and Sea Lions，CRC handbook of marine mammal medicine，Dierauf LA，Gulland FM eds，2nd ed，907-926，CRC Press，Boca Raton（2001）
４）伊藤徹魯：鰭脚類（上科），歯の比較解剖学，第２版，166，医歯薬出版株式会社，東京（2014）
５）藤田桂一ら：獣医歯科学level-1講義編，第１版，71，日本小動物歯科研究会，東京（2021）
６）Sinai NL，Dadaian RH，Kass PH，Verstraete FJM：Dental Pathology of the California Sea Lion（*Zalophus californiaus*），Journal of Comparative Pathology，113-121（2014）
７）Istance K：Dental Checkup：Extraction of Fractured Teeth in Captive Sea Lions，Veterinary Technician Journal February（2013）
８）Watanabe K，Imai A，Kanayama M，Miyawaki S，Shibata S，Tachikawa Y，Terasawa F，Yamazoe K：Internal Dental Fistula by Periapical Lesion in a California Sea Lion，J. Jpn. Vet .Med .Assoc..，65，457-461（2012）
９）Simeone CA et al.：Management of dental disease in eared seals（family Otariidae）：a Delphi approach，Front. Vet .Sci .，26 August（2025）
10）中山亮平，中川種昭：ビギナーが陥りやすいピットフォール，フラップ手術のすすめ，中川種昭，第１版，101-109，医歯薬出版株式会社，東京（2018）
11）Furman RB：Oronasal fistula repair，Dental Extractions Made Easier，Niemiec BA，48-55，Pracitical Veterinary Publishing（2012）
12）中田朋孝，原田三智子，寺地基浩，長谷川玲奈，中村勇紀，寺井菜々子：歯肉粘膜フラップが離開した犬の症例，令和３年度獣医学術東北地区大会抄録，68，（2021）

資　料

令和７年度家畜衛生関係事業実績の概要

宮城県農政部家畜防疫対策室

１　概　　況

家畜伝染病の発生動向については，豚熱では，飼養豚において，平成30年９月以降，国内での発生が継続しており，令和８年７月末現在，26都県で105事例が確認されています．これまでに186農場等で約44.9万頭が殺処分されています．

また，高病原性鳥インフルエンザについては，令和７年度シーズンにおいて，家きんで16道府県24事例が確認され，約576万羽が殺処分されました．県内では，令和８年３月，角田市のあひる飼養農場で発生し，関係機関と連携して防疫措置を実施し，県内におけるまん延防止を図りました．

アフリカ豚熱については，近隣の国・地域において発生が継続しており，未発生地域であった台湾においても令和７年10月に発生が確認されたことから，東アジアにおける未発生地域は日本のみとなっています．農林水産省では，全国の空港及び海港において水際対策を強化しております．海外から病原体が侵入するリスクは依然として高く，これまでにも海外から不正に持ち込まれた豚肉製品等からアフリカ豚熱ウイルスが分離された事例が報告されています．

このような状況の中，県では，生産者に対し，消毒の徹底をはじめとする飼養衛生管理基準の遵守に関する指導を強化するとともに，口蹄疫，豚熱，アフリカ豚熱及び高病原性鳥インフルエンザ等の侵入防止・まん延防止対策に取り組んでいます．さらに，関係部局及び関係機関と連携し，防疫演習の実施や防疫対策マニュアル等の継続的な検証・改善を通じて，発生時における初動対応体制のさらなる強化と平準化に努めています．

２　監視伝染病の発生状況

令和７年度は，前述の高病原性鳥インフルエンザの他，ヨーネ病，牛伝染性リンパ腫等の監視伝染病の発生が確認されました（**表１**）．牛では，牛伝染性リンパ腫の発生が増加傾向にあります．

表１　監視伝染病（患畜／真症）の月別発生状況

（頭・羽）

監視伝染病の種類	畜種	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
高病原性鳥インフルエンザ	鶏													
ヨーネ病	牛				1				1					2
牛伝染性リンパ腫	〃	28	19	16	24	11	14	26	12	20	14	17	12	213
牛ウイルス性下痢	〃		1											1
豚流行性下痢	豚												1	1
豚丹毒	〃	4	2	1	2				2	1	3			15
レプトスピラ症	犬									1				1

※高病原性鳥インフルエンザについては，患畜確定は令和８年４月（２羽）

3　家畜伝染病予防事業

家畜伝染病予防法に基づき，牛，豚，鶏，馬等を対象とした各種検査を実施し（**表２**），家畜伝染病の発生予防及びまん延防止に努めるとともに，安全な畜産物の安定供給を図っています．

表２　家畜伝染病予防事業実績

（令和８年３月31日現在）

検査区分	家畜の種類	実施延頭羽数（頭，羽）	結果			摘要
			患畜	疑似	健康	
ブルセラ症	牛	4			4	
結核	〃	0			0	
ヨーネ病	〃	8,011	2		8,009	
牛伝染性リンパ腫	〃	2,453	※246		2,207	※抗体陽性牛含む
アカバネ病	〃	255			255	
牛ウイルス性下痢	〃	300	※8		292	※PI 牛４頭
牛トリコモナス症	〃	40			40	
牛カンピロバクター症	〃	40			40	
牛海綿状脳症	〃	※53			53	※神経症状牛等
オーエスキー病	豚	1,503			1,503	
豚ブルセラ症	〃	314			314	
ニューカッスル病	鶏	270	※126	10	134	※抗体陽性
高病原性鳥インフルエンザ	〃	640	※	20	620	※患畜確定R8.4 ２羽
腐蛆病	蜜蜂	1,306			1,306	
牛伝染性疾病	牛	13,397	※14		13,383	※呼吸器・下痢症状
豚伝染性疾病	豚	14,929			14,929	
鶏伝染性疾病	鶏	102,073			102,073	
馬伝染性疾病	馬	7			7	
羊伝染性疾病	羊	209			209	
ピロプラズマ症	牛	2,644	206		2,438	※鏡検陽性

⑴　高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ

定点モニタリング検査（６～９月検査）は，県内12農場について，計480羽の血清抗体検査を実施しました．強化モニタリング検査（年１回検査）は，100羽以上の家きんを飼養する農場から14戸を抽出し，140羽の血清抗体検査を実施しました．

⑵　牛海綿状脳症（BSE）

BSE検査は，生前にBSEを疑う症状がみられた死亡牛53頭について実施しました．

⑶　ヨーネ病

8,011頭について検査を実施し，２戸２頭の患畜が確認されました．

⑷　オーエスキー病

オーエスキー病については，平成28年度に県内すべての地域がステータスⅣへ移行したことにより，清浄県に復帰し，令和５年１月，全都道府県が清浄地域（ステータスⅢ又はⅣ）に移行しています．

4　豚熱等発生予防対策事業

家畜伝染病予防法や豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針に基づくワクチン接種や検査を実施し，豚

熱の発生予防及びまん延防止を図ることで，畜産の振興に取り組んでいます．

⑴　豚熱ワクチン接種

令和２年10月から県内の飼養豚に対する豚熱ワクチン接種を開始しており，令和７年度は471,601頭に接種しました．

⑵　ワクチン接種後の抗体保有率調査

豚熱ワクチンを接種した繁殖母豚及び肥育豚を対象に，令和７年度は2,286頭の採血を実施し，抗体保有率が約89.4％であることを確認しました．

⑶　知事認定獣医師制度（令和４年１月導入）

県職員等の家畜防疫員に限定されていたワクチン接種について，適時・適切な接種体制を推進するため，民間獣医師も接種可能とする体制を導入しています（令和８年３月末現在，知事認定獣医師34名，対象養豚場49農場）．

⑷　登録飼養衛生管理者制度（令和５年３月導入）

県職員等の家畜防疫員に限定されていたワクチン接種について，適時・適切な接種体制を推進するため，登録を受けた飼養衛生管理者も接種可能とする体制を導入しています（令和８年３月末現在，登録飼養衛生管理者127名，対象養豚場30農場）．

⑸　野生イノシシの豚熱検査

県内の野生イノシシの豚熱感染状況を把握するため，死亡又は捕獲されたイノシシ481頭を対象に豚熱検査を実施し，うち44頭の豚熱感染を確認しました．

⑹　野生イノシシにおける豚熱感染の拡大防止のための経口ワクチン散布

令和３年10月に宮城県豚熱経口ワクチン協議会を設立しました（現在構成員：宮城県，33市町村，宮城県畜産協会，宮城県獣医師会及び宮城県猟友会）．令和７年度は20市町村（仙台市，石巻市，白石市，角田市，登米市，栗原市，大崎市，蔵王町，七ヶ宿町，大河原町，村田町，柴田町，川崎町，丸森町，亘理町，山元町，大衡村，色麻町，加美町及び南三陸町）の715地点において，14,240個の経口ワクチンを散布しました．

５　家畜衛生対策事業

家畜衛生対策事業では，消費・安全対策交付金（農林水産省所管）を活用し，主に以下の項目について疾病検査及び生産性阻害要因の検討を行いました．また，その結果に基づき，衛生対策及び農家指導を実施することで生産性の向上を図り，安全・安心な畜産物の供給を推進しています．

⑴　精度管理の適切な実施：家畜の伝染性疾病検査の信頼性を確保するため，精度管理の実施に必要な機器の校正を行うとともに，研修会へ参加しました．

⑵　BSE検査：生前にBSEを疑う症状がみられた死亡牛53頭について検査を実施し，全頭が陰性でした．

⑶　家畜衛生関連情報の整備：全国及び県内外の家畜保健衛生業績発表会（対面・Web）に参加し，家畜衛生に関する最新情報の収集に努めました．得られた知見を現場業務に反映して迅速かつ的確な疾病診断に活用するとともに，家畜飼養者へ衛生情報を提供し，疾病予防の啓発を図りました．

⑷　地域における発生予防の体制整備：アフリカ豚熱等の海外からの侵入防止に向けた水際対策として，仙台空港国内線ロビーにおいて，旅客が多い３か月間（８月，１月及び２月），消毒マットによる靴底消毒を実施しました．

⑸　家畜の生産性を低下させる疾病の低減：牛，豚及び鶏の飼養経営における生産性阻害要因の状況を確認し，生産性を低下させる疾病の低減に向けた農家指導を実施しました．

⑹　家畜の伝染性疾病の発生に備えた体制整備：広域的な影響を及ぼす家畜伝染病の発生に備え，埋却予定地の調査を実施し，埋却地確保の取組を推進しました．

⑺　動物用医薬品の適正使用と危機管理：動物用抗菌剤の使用に起因する薬剤耐性菌の発現状況を把握するため，病性鑑定を実施した家畜（牛）から分離されたサルモネラ菌について，薬剤耐性状況調査を実施しました．また，家畜保健衛生所において，動物用医薬品の適正な流通及び保管状況等の調査を実施しました．

⑻　家畜衛生対策の推進に係る関連機器の整備：家畜衛生対策の推進に必要な検査機器の整備（購入６台，リース３台）を実施しました．

６　動物用医薬品取締指導事業

動物用医薬品取締指導事業では，医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき，県内の動物用医薬品や医療機器の販売業者，製造業者等の許可及び立入検査等を実施し，動物用医薬品の適正使用の推進及び品質管理向上を図っています．令和７年度は60事業所に対し立入検査を実施するとともに，動物用医薬品販売業で８件，動物用高度管理医療機器販売貸与業で２件を新規に許可しました（**表３**）．

表３　動物用医薬品取締指導事業実施状況

業　　種	立入検査対象数	立入検査箇所数	新規許可件数
動物用医薬品販売業	245	54	8
動物用高度管理医療機器販売貸与業	29	5	2
動物用管理医療機器販売業（届出）	52	0	0
動物用再生医療等製品販売業	2	0	0
動物用医薬品製造業・製造販売業	4	1	0
動物用医薬部外品製造業・製造販売業	2	0	0
動物用医療機器製造販売業	3	0	0
合　　計	337	60	10

７　令和７年度宮城県家畜保健衛生業績発表会

令和７年度宮城県家畜保健衛生業績発表会は，令和８年１月30日(金)に仙台市戦災復興記念館で開催しました．発表演題数は，第１部７題，第２部３題，第３部３題の計13題でした．このうち，北海道・東北ブロック家畜保健衛生業績発表での発表演題として３題，宮城県獣医師会長賞として３題が選出されました（**表４**）．

表４　令和７年度　宮城県家畜保健衛生業績発表会演題及び発表者

No.	区分	発　表　演　題	所　　属	発表者
1	１部	管内一公共牧場における牛伝染性リンパ腫感染リスク評価に基づく対策と意識醸成の取組	北部家畜保健衛生所	山本　早苗
○2	１部	黒毛和種子牛の呼吸器病多発事例と再発防止に向けた取り組み	北部地方振興事務所 栗原地域事務所畜産振興部	髙橋　春美
◎3	１部	仙南地域における県基幹種雄牛「昭光茂」を活用した畜産振興の取組（続報）	大河原家畜保健衛生所	佐藤　奈穂
4	１部	民間施設と連携した高病原性鳥インフルエンザ発生時の焼却体制構築に向けた取組	仙台家畜保健衛生所	田中　芳樹
5	１部	新庁舎への移転と交差汚染リスク低減に向けたバイオリスク管理強化の取組	仙台家畜保健衛生所	江頭　宏之
6	１部	業務の集約・省力化に向けた全自動エライザシステム導入への取組	仙台家畜保健衛生所	齋藤　拓海
◎7	１部	生成AIの活用とワークシェアリングによる働き方改革の実現に向けた家保の取り組み	仙台家畜保健衛生所	土井　敬一

No.	区分	発　表　演　題	所　　属	発表者
◎８	２部	先天性振戦を呈した子豚における非定型豚ペスチウイルス（APPV）の県内初検出事例	仙台家畜保健衛生所	大関　貴大
○９	２部	非定型豚ペスチウイルス（APPV）感染豚で見られた血液生化学的性状	仙台家畜保健衛生所	塩原　綾早
○10	２部	めん羊の鼻腔内に認められた腫瘤の病理組織学的検索	仙台家畜保健衛生所	岸田　竜馬
☆11	３部	出荷月齢の異なる和牛肉の官能特性の比較について	畜産試験場	佐々木孔亮
12	３部	子豚への5-アミノレブリン酸給与が発育，血液成分，腸管の免疫系に及ぼす影響	畜産試験場	河野　優紀
13	３部	宮城県での牧草初冬期播種の適応性	畜産試験場	天野　祐敏

◎：宮城県家畜防疫対策室長賞（北海道・東北ブロック選出）
☆：宮城県家畜防疫対策室長賞
○：宮城県獣医師会長賞

令和７年度と畜検査及び狂犬病予防事業等の概要

宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課

Ⅰ　と畜検査・食鳥検査

県では，食肉・食鳥肉の衛生対策として，と畜検査及び食鳥検査を実施しています．

と畜場法に基づき本県の許可を受けたと畜場は，一般と畜場が１施設，簡易と畜場が１施設あります．このほか県内には，仙台市の許可を受けた一般と畜場が１施設あります．

と畜検査は，公務員獣医師であると畜検査員が実施しています．令和７年度は，牛豚等併せて250,032頭のと畜検査を実施しました．また，BSE検査に関しては月齢に関係なく臨床症状を呈する牛を，めん山羊のTSE検査に関しても臨床症状を呈する個体を検査対象としており，令和７年度はいずれも検査実績はありませんでした．

食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律に基づき本県の許可を受けた食鳥処理場は，大規模食鳥処理場が１施設，認定小規模食鳥処理場が６施設あります．大規模食鳥処理場における食鳥検査は，公益社団法人宮城県獣医師会が指定検査機関として実施しており，令和７年度は約1,124万羽の検査が行われました．

と畜検査・食鳥検査業務では，疾病個体の排除のほか，細菌検査，抗菌性物質残留検査を行うなど，食の安全確保の重要な役割を担っています．令和７年度の抗菌性物質残留検査は，牛２頭，豚182頭及び食鳥68羽において実施され，すべて陰性でした．

さらに，平成23年度以降，県内でと畜される畜産物の安全を確認するため，食肉中の放射性物質検査を実施しています．令和７年度は牛肉等について89件の検査を実施し，すべて食品衛生法で定められた基準値以下であることを確認しています．

年度別と畜検査頭数（**表１**）
と畜場別と畜検査頭数（**表２**）
獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの原因（**表３**）
大規模食鳥処理場における食鳥検査羽数（**表４**）
認定小規模食鳥処理場における確認状況（**表５**）

表１　年度別と畜検査頭数

年　度	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
生後一年以上の牛	3,899	3,796	3,998	3,437	2,993	2,435	2,864	3,254	195	227
生後一年未満の牛	0	3	0	1	2	2	7	6	0	0
馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豚	237,425	245,914	228,860	238,060	247,450	241,800	238,282	246,001	241,680	249,584
めん羊	39	13	31	39	86	139	172	190	223	221
山羊	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	241,364	249,726	232,889	241,537	250,531	244,376	241,325	249,451	242,098	250,032
前年度比％	95	103	93	104	104	98	99	103	100	103
仙台市	127,388	123,409	127,243	124,079	130,015	129,332	132,051	127,878	128,043	127,798
前年度比％	108	97	103	98	105	99	102	97	100	100
県内計	368,752	373,135	360,132	365,616	380,546	373,708	373,376	377,329	370,141	377,830
前年度比％	99	101	97	102	104	98	100	101	98	102

表２　と畜場別と畜検査頭数

	検査所	食肉衛生検査所		畜　産 試験場	計	仙台市	合　計
	と畜場 事項	㈱宮城県食肉流通公社食肉流通センター（健康畜）	㈱宮城県食肉流通公社食肉流通センター（病畜）				
総数	検査頭数	249,961	71	0	250,032	127,798	377,830
	と殺禁止	0	0	0	0	0	0
	全部廃棄	214	9	0	223	503	726
	一部廃棄	160,870	58	0	160,928	33,026	193,954
生後一年以上の牛	検査頭数	227	0		227	17,790	18,017
	と殺禁止	0	0		0	0	0
	全部廃棄	1	0		1	341	342
	一部廃棄	166	0		166	7,881	8,047
生後一年未満の牛	検査頭数	0	0		0	55	55
	と殺禁止	0	0		0	0	0
	全部廃棄	0	0		0	4	4
	一部廃棄	0	0		0	27	27
馬	検査頭数	0	0		0	0	0
	と殺禁止	0	0		0	0	0
	全部廃棄	0	0		0	0	0
	一部廃棄	0	0		0	0	0
豚	検査頭数	249,513	71	0	249,584	109,953	359,537
	と殺禁止	0	0	0	0	0	0
	全部廃棄	213	9	0	222	158	380
	一部廃棄	160,651	58	0	160,709	25,118	185,827
めん羊	検査頭数	221	0		221	0	221
	と殺禁止	0	0		0	0	0
	全部廃棄	0	0		0	0	0
	一部廃棄	53	0		53	0	53
山羊	検査頭数	0	0		0	0	0
	と殺禁止	0	0		0	0	0
	全部廃棄	0	0		0	0	0
	一部廃棄	0	0		0	0	0

表３　獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの原因　（畜産試験場及び仙台市を除く）

			生後１年以上の牛			生後１年未満の牛			馬			豚			めん羊			山羊		
			禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃止	一部廃棄
実頭数				1	166								222	160,709			53			
疾病別頭数	細菌病	炭疽																		
		豚丹毒											15							
		サルモネラ病																		
		結核																		
		ブルセラ病																		
		破傷風																		
		放線菌病																		
		その他																		
	ウイルスリケッチア病	豚熱																		
		その他																		
	原虫病	トキソプラズマ病																		
		その他																		
	寄生虫病	のう虫病																		
		ジストマ病			1															
		その他												10,049						
	その他の疾病	膿毒症											58							
		敗血症											111							
		尿毒症																		
		黄疸											3	20						
		水腫			16								4	3,002			1			
		腫瘍		1									11	5						
		中毒諸症																		
		炎症又は炎症産物による汚染			134								5	149,225			46			
		変性または萎縮			89								15	19,349			12			
		その他			1									3,398						
	合計		0	1	241	0	0	0	0	0	0	0	222	185,048	0	0	59	0	0	0

表４　大規模食鳥処理場における食鳥検査羽数

処理場数	開場日数（日）	検査羽数（羽）	処分内容	処分実羽数（羽）	疾病別羽数（羽）											
					変性	水腫	腹水症	出血	炎症	外傷	削痩・発育不良	放血不良	湯漬過度	腫瘍	大腸菌症	その他
1	270	ブロイラー 11,244,762	禁止													
			全部廃棄	183,941	8,744	2,771	19,616	497	6,908	3,794	4,350	2,914	398	366	133,532	51
			一部廃棄	104,618	9,838	388		25,589	68,120	111				572		

表５　認定小規模食鳥処理場における確認状況

No.	処理場名	種　類	確認羽数（羽）	廃棄羽数（羽）		監視件数
				全部廃棄	一部廃棄	
1	㈲トミヤマ・スープ食品	成　鶏	0	0	0	2
2	宮崎かもかも倶楽部	成　鶏	41	0	0	2
		あひる（フランス鴨）	1,100	6	0	
3	天狗の丘食鶏処理場	成　鶏	330	0	0	2
4	㈲フレッシュバルバリー	成　鶏	1,602	0	0	2
		あひる（合鴨）	3,535	0	0	
5	町田食鶏処理場	あひる（合鴨）	43,255	489	132	1
6	カナール食品	成　鶏	休止中			
計			49,863	495	132	9

Ⅱ　狂犬病予防業務

狂犬病予防法に基づく飼い犬の登録と狂犬病予防注射は，平成12年４月以降，市町村の事務となっており，県は，市町村と連携し，飼い犬の登録及び予防接種の推進を図っています．

宮城県（仙台市を除く）における狂犬病予防注射の接種率（予防注射実施頭数／年度末登録頭数×100）は，令和７年度は81.8％（46,994／57,462×100）となっています．

犬の抑留頭数は，令和７年度は166頭で，平成28年の447頭から10年間で300頭弱減少しました．

保健所・支所及び動物愛護センターでは，保護犬情報をホームページへ掲載するほか，鑑札やマイクロチップ装着等の啓発により，返還率向上に取り組んでいます．また，飼い犬の飼養管理について飼い主へ助言・指導を行い，放浪犬による危害発生の防止に努めています．法の趣旨に基づき狂犬病予防注射のさらなる接種率向上のため，引き続き登録や狂犬病予防注射に関する普及啓発及び指導を行います．

年度別総括（**表６**）

表６　年度別総括

区分／年度	登録申請頭数	年度末登録頭数	予防注射実施頭数	抑留頭数
平成28年	4,799 2,739	74,396 48,158	62,237 38,272	447 114
	7,538	122,554	100,509	561
平成29年	4,711 3,560	71,974 47,487	60,726 37,499	374 110
	8,271	119,461	98,225	484
平成30年	4,848 3,778	69,790 46,622	58,803 36,697	305 88
	8,626	116,412	95,500	393
令和元年	4,454 3,069	66,979 46,090	56,845 36,297	299 59
	7,523	113,069	93,142	358
令和２年	4,270 3,437	64,828 45,429	54,758 34,289	267 53
	7,707	110,257	89,047	320
令和３年	4,581 3,285	63,291 43,991	52,868 35,171	225 54
	7,866	107,282	88,039	279
令和４年	4,126 3,102	62,007 43,100	51,586 33,834	207 40
	7,228	105,107	85,420	247
令和５年	3,922 3,085	60,676 42,310	50,115 32,887	177 32
	7,007	102,986	83,002	209
令和６年	3,881 3,498	59,399 41,764	48,604 32,679	194 35
	7,379	101,163	81,283	229
令和７年	3,412 4,217	57,462 41,996	46,994 32,935	166 26
	7,629	99,458	79,929	192

上段：宮城県（仙台市を除く），中段：仙台市，下段：県全体
犬の登録及び予防注射は，平成12年４月１日から市町村の事務となっているが，参考として掲載
返還頭数については，動物愛護センターでの実績を含む．

Ⅲ　動物の愛護及び管理業務

動物の愛護及び管理に関する県の基本的方向性や中長期的な目標を明確化し，計画的に目標を達成するため，平成19年に「宮城県動物愛護管理推進計画」を策定しました．その後，二度の改定を経て，令和３年３月に現行計画を策定しました．本計画は，「動物愛護を通した生命を大切にする心の育成」，「動物の適正な管理に基づいた人と動物が共生する社会の形成」，「動物の愛護と管理に関する県民合意の形成と協働関係の構築」の３つの基本理念と10の施策で構成されています．

令和７年度の犬・猫の引取り頭数は，犬が48頭となり前年度から１頭，猫が443頭となり前年度から６頭増加しました．猫の引取り数については，飼い主不明猫が減少した一方で，多頭飼育などによる飼い主からの引取りが増加しました．今後も飼い主への終生飼養や適正飼養に関する普及啓発を進めるとともに，宮城県獣医師会が実施する飼い主のいない猫の不妊去勢事業の利用促進を図り，引取り頭数の削減に取り組んでまいります．

ミルクボランティア事業では，哺乳や排せつ等の

世話が必要な子猫61頭の一時飼養をボランティアに依頼し，そのうち45頭が新しい飼い主へ譲渡されました．本事業に係る子猫の診療や負傷動物の診療等については，貴会会員の動物病院に御協力いただいているところです．また，令和７年度，動物愛護センターにおいて譲渡対象の犬猫219頭に対し不妊去勢手術を実施したほか，休日に猫の譲渡会を９回開催し，103頭の猫を譲渡するなど，譲渡の推進に積極的に取り組みました．さらに県では，引取り数削減及び譲渡推進に向けた取組みとして，令和８年４月１日より犬猫マッチングサイトの運用を開始しているところです．

今後も，宮城県動物愛護管理推進計画に基づく各種施策を計画的に実施し，地域における動物をめぐる諸問題の解消に取り組むほか，引取り頭数の削減，譲渡の推進及び不妊去勢措置の啓発により殺処分頭数の削減を図ってまいります．

犬・猫の引取り状況（**表７**）
主な動物愛護業務実施状況（動物愛護センター）（**表８**）
主な動物愛護行事実施状況（**表９**）

表７　犬・猫の引取り状況（頭数）（抑留犬，収容犬及び負傷犬猫は含まない）

年度／区分	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６	R７
犬	133	78	87	76	50	60	31	28	47	48
（仙台市別掲）	5	5	6	1	5	1	2	15	3	3
猫	2,199	1,820	1,622	1,336	1,190	785	726	660	437	443
（仙台市別掲）	631	540	359	279	236	185	63	95	71	98

表８　主な動物愛護業務実施状況（動物愛護センター）

宮城県動物愛護センターにおける愛護事業実施状況

年　度	ふれあい教室実施状況			ふれあい広場利用状況	
	件数（件）		参加者数（人）	開場日数（日）	利用者数（人）
	所　内	移　動			
H28	34	2	1,636	242	8,094
H29	30	3	1,307	215	6,183
H30	26	2	1,260	194	3,646
R１	27	3	1,165	176	3,243
R２	0	0	0	171	489
R３	0	0	0	171	681
R４	3	0	65	192	1,139
R５	8	0	190	190	1,528
R６	8	0	265	193	1,605
R７	8	0	268	127	1,180

譲渡動物の不妊去勢手術及び譲渡会の実施状況

事　業　名	実　施　日	参加者数(人)	内　容　等
不妊去勢手術	随　時		犬：　30頭（オス14頭，メス16頭） 猫：189頭（オス94頭，メス95頭） ※保健所獣医師による手術実施分を含む．
猫の譲渡会	年９回	871	譲渡会を休日に開催． 猫103頭譲渡（成猫56頭，子猫47頭）

表９　保健所・支所における動物愛護行事実施状況（仙台市を除く）

公所	開催年月日	参加者数	場所	行事名	主催・共催等	概要
仙南	R 7. 5. 9	130	白石市中央公民館	動物愛護に関する研修	主催：白石市 共催：社会福祉法人白石市社会福祉協議会，白石市民生委員児童委員協議会	白石市民生委員・児童委員現任研修会において，民生委員，児童委員に対して，動物の適正飼養についての講義を行った．
	R 8. 2. 5	50	白石第一小学校	白石第一小学校出前授業	白石第一小学校 白石市教育委員会	小学５年生を対象とし，動物愛護をテーマに，生徒参加型の授業を行った．
塩釜	R 7. 7. 1	150	ヤマザワ汐見台店 ドラッグヤマザワ汐見台店 ダイソーヤマザワ汐見台店	食中毒・薬乱防止キャンペーン	—	動物愛護の普及啓発を行った．
	R 7. 9.28	220	利府町役場	りふ環境まるごとフェア2025	利府町	動物愛護および適正飼養，狂犬病予防注射の普及啓発を行った．
岩沼	R 8.11. 3	543	名取市体育館	ふるさと名取秋祭り	名取市	動物愛護推進員と協力し，啓発資材の配布，犬・猫に関する関するクイズ，ポスター・パネルの展示を行った．
黒川	R 7.11.23	37	大和町体育センター及び大和町町民研修センター	飼い犬のしつけ方教室	主催：塩釜保健所黒川支所，宮城県獣医師会黒川班，大和町 共催：富谷市，大郷町，大衡村	飼い犬の適切な飼い方の普及啓発のため，訓練士による講義，実習を行った．
大崎	R 7.10. 5	655	吉野作造記念館（大崎市）	令和７年度いぬねこ十一番地	主催：いぬねこ十一番地実行委員会 共催：大崎保健所	講師を招へいし，移動手術車による手術デモ及び講演を行った．また，譲渡対象猫の展示や犬猫に関する相談受付も実施した．
	R 7.10.19	15	築館体育センター（栗原市）	令和７年度犬のしつけ教室	主催：大崎保健所，公益社団法人宮城県獣医師会栗原支部 共催：栗原市	警察犬訓練所の訓練士を講師に招き，適正飼養に関する講演と，犬同伴参加者へ犬のトレーニング方法の実演を行った．
石巻	R 7. 7.22	180	イオンモール石巻	動物愛護啓発キャンペーン	石巻保健所	イオンモールの利用者に対して啓発資材（啓発チラシ入りポケットティッシュ：180個，啓発メッセージ入りマーカーペン：42本）を配布した．
	R 7.10.19	940	石巻南浜復興祈念公園	犬学園フェスタ2025	犬楽園事務局 石巻保健所	イベント来訪者に対して啓発資材（「宮城県保健所犬猫ダイヤル」等のチラシ：1,600枚，パンフレット：77部，啓発チラシ入りポケットティッシュ：940個，啓発メッセージ入りマーカーペン：249本）を配布した．
	R 7.11.15	10	北方公民館	令和７年度愛犬と飼い主のマナーアップ講座	登米市市民生活部環境課 公益社団法人宮城県獣医師会仙北支部 石巻保健所	家庭犬しつけ方について，実践指導及び個別相談を行った．
	R 7.11.16	5	吉田公民館	令和７年度愛犬と飼い主のマナーアップ講座	宮城県獣医師会石巻支部 登米市市民生活部環境課 公益社団法人宮城県獣医師会仙北支部 石巻保健所	家庭犬しつけ方について，実践指導及び個別相談を行った．
気仙沼	R 7.11. 3	90	南三陸町総合体育館	南三陸町産業フェア 薬物乱用防止啓発事業・動物愛護啓発事業	南三陸産業フェア実行委員会	動物愛護啓発資材の配布，マイクロチップ読み取り体験，譲渡動物の紹介および外部講師による猫の不妊去勢手術に関する講演を行った．
	R 7.11. 9	18	気仙沼市階上公民館	令和７年度気仙沼地区家庭犬しつけ方教室	主催：（公社）宮城県獣医師会仙北支部 共催：気仙沼市市民生活部環境課，南三陸町農林水産課，気仙沼保健所	ドッグスクールマツモト　松本章氏を講師に迎え，参加者の飼い犬によりしつけを実演し，その後参加者本人に実際にやってもらう，といった流れを基本として進行した．その後，参加者及び聴講者各自からの個別質問に対し，質疑応答した．

令和７年度家畜共済事業実績

NOSAI宮城　第二事業部家畜課

令和７年度の家畜共済事業実績を報告いたします．

【引受】

昨今の世界情勢の不安定から，資材等の高騰による経費の増大で畜産業は非常に厳しい状況にあり廃業も続いております．農業者の廃業等による戸数の減少も影響し引受頭数は延べ195,213頭（前年比96.6％）となりました．

共済金額についても，引受頭数の減少に伴い51,363,329千円（前年比93.2％）となりました．

【事故（死廃）】

死亡廃用事故頭数は，全体で626頭減少（前年比85.9％）となりました．病類別にみると泌尿器病等増加したものもありましたが，循環器病で249頭，消化器病で140頭，子牛・胎子の新生子異常では70頭減少しました．

しかし，牛伝染性リンパ腫による事故については前年度より１頭増加の151頭で，死亡廃用事故全体の4.1％と近年では最大の発生割合となりました．

支払共済金は，593,065千円（前年比86.1％）となり，事故頭数の減少が大きいと思われます．

【事故（病傷）】

病傷事故については，乳用牛で34件増加となりましたが，肉用子牛で1,290件，肉用成牛で199件減少し，全体で1,489件（前年比95.4％）の減少となりました．病類別でみると，生殖器病が257件，泌尿器病で77件増加し，その他微増したものもあったが全体的に減少となっています．

支払共済金は，558,877千円となり前年度より21,320千円減少（前年比96.3％）しました．これについては，牛の引受頭数が減少していることもありますが，１事故当たりの支払金額も減少しております．

令和７年度家畜共済事業実績

			引受（加入）			死廃事故			病傷事故		
			頭　数 頭	共済金額 千円	共済金額 前年比 ％	頭　数 頭	支払共済金 千円	共済金 前年比 ％	件　数 件	支払共済金 千円	共済金 前年比 ％
家畜	死亡廃用共済	乳用牛	16,185	3,087,837	90.6	955	126,593,002	96.1			
		肉用牛	105,156	46,278,357	93.2	2,717	464,420,690	83.8			
		一般馬	2	1,265	97.1	0	0	－			
		種豚	1,906	130,772	111.2	11	552,800	117.9			
		肉豚	16,995	203,940	78.2	121	1,498,405	66.5			
		種雄牛	10	4,870	106.8	0	0	0.0			
		計	140,254	49,707,041	93.0	3,804	593,064,897	86.1			
	疾病傷害共済	乳用牛	11,897	475,955	106.6				8,242	137,181,784	100.4
		肉用牛	43,050	1,179,896	95.2				31,042	421,674,625	95.1
		一般馬	2	45	100.1				0	0	－
		種豚	0	0	0.0				1	8,577	82.9
		種雄牛	10	391	102.6				1	11,808	35.3
		計	54,959	1,656,287	98.3				39,286	558,876,794	96.3
合計			195,213	51,363,329	93.2	3,804	593,064,897	86.1	39,286	558,876,794	96.3

動物用・医療用・一般用医薬品及びその関連・周辺商品の販売

私たちは命に感謝し

心身ともに豊かな暮らしを創造し

人々を笑顔にすることを目指す

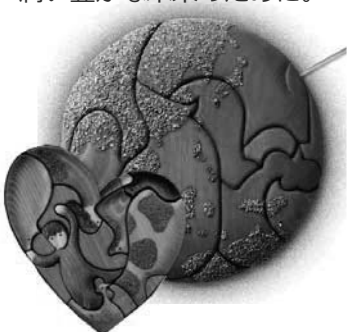


株式会社 アグロ ジャパン

本　社　〒950-0134　新潟市江南区曙町５丁目１番３号　TEL　025-250-6680　FAX　025-250-7113

●南東北営業部
〒981-3188　仙台市泉区八乙女３丁目３番１　株式会社バイタルネット仙台支店３階
TEL　022-343-5301　FAX　022-218-5205
□福島チーム　〒963-8851　郡山市開成６丁目167-1　オフィス開成　２階Ｄ号室
TEL　024-954-4171　FAX　024-954-4172
□宮城チーム　〒981-3188　仙台市泉区八乙女３丁目３番１　株式会社バイタルネット仙台支店３階
TEL　022-343-5301　FAX　022-218-5205
□山形チーム　〒990-2338　山形市蔵王松ヶ丘１丁目２番10号
TEL　023-688-8211　FAX　023-688-8241
○新潟・北陸営業部　TEL　025-250-6194　　○札幌営業部　TEL　011-887-7225
○北東北営業部　TEL　0176-23-7231　　○帯広営業部　TEL　0155-23-9921

人と動物の絆から生まれる、
潤い豊かな未来のために。



＜本　　社＞
〒441-8021　愛知県豊橋市白河町100番地　豊橋サーラ3F
TEL　0532-34-3821　FAX　0532-33-3611

＜宮城営業所＞
〒981-3133宮城県仙台市泉区泉中央4-19-1
プラーナ泉中央208号
TEL 022-347-4138　FAX 022-346-9466

動物用医薬品ディーラー
株式会社 アスコ

今までもこれからも「生命の未来」のために尽くしたい
獣医師・畜産用医薬品，ワクチン類，器具機材，プレミックス製造販売総合商社
小田島商事株式会社

本　社　岩手県花巻市卸町６６番地　TEL　０１９８（２６）４１５１
古川営業所　宮城県大崎市古川清水字周防１０番地１　TEL　０２２９（２６）４５６７

◆営業所一覧◆

花巻営業所	TEL　０１９８（２６）４７００	福島営業所	TEL　０２４（５５３）６６７８
大船渡営業所	TEL　０１９２（２６）４７４０	旭川営業所	TEL　０１６６（４６）０２７０
大館営業所	TEL　０１８６（４３）１６０９	札幌営業所	TEL　０１１（８１３）１３００
横手営業所	TEL　０１８２（３３）５４０４	帯広営業所	TEL　０１５５（２５）８６６１
青森営業所	TEL　０１７（７３８）１２２４	釧路出張所	TEL　０１５４（３１）５５７５
八戸営業所	TEL　０１７８（３４）２２８４		
山形営業所	TEL　０２３（６３３）５３３３	プレミックス工場	TEL　０１９８（２６）４７２６
酒田出張所	TEL　０２３４（２６）４６６６	家畜衛生食品検査センター	TEL　０１９８（２６）５３７５

明治アニマルヘルスは狂犬病の予防啓発に取り組んでいます。

飼い主の皆さまへ向けて

リーフレット
「狂犬病について考えてみよう」



動画はこちら



アニメーション
「狂犬病ワクチンを注射しましょう」



※本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用してください。

meiji 明治アニマルヘルス株式会社
熊本市北区大窪一丁目６番１号



ささえあ製薬株式会社

FUJITA PHARM × KYOTOBIKEN

動物用医薬品メーカーのフジタ製薬と動物用ワクチンメーカーの京都微研は、両社の営業機能を統合した新会社ささえあ製薬を設立しました。ささえあ製薬では、予防ワクチンから治療薬まで両社の製品を一貫してご提供できる営業体制を構築することで、より多くのユーザー様に対する製品と情報のご提供を実現してまいります。

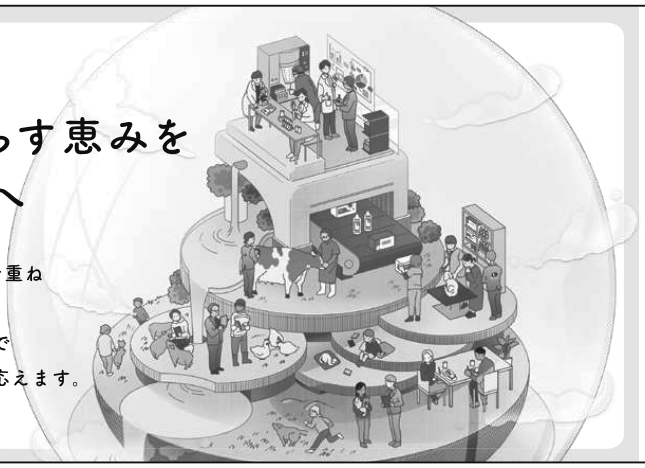
Sasaeah

Resonance with You

動物と人が奏でる暮らしのために

動物がもたらす恵みを
世界の人々へ

私たちは、たゆまぬ研鑽を重ね
常に可能性を探求し、
動物の価値を高めることで
お客様と社会のニーズに応えます。



Gazing at the future

ZENOAQ（ゼノアック）

動物用医薬品製造販売
日本全薬工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
ZENOAQ（ゼノアック）は日本全薬工業の企業ブランドです。

www.zenoaq.com



メディパルグループ



MPアグロは「安全・安心・安定供給」を追及します

●安全な畜水産物の生産をサポートし、
獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

MPアグロ株式会社

本社　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860　FAX 011(376)2600

Jm Japan medical co.,ltd
株式会社日本医療器

私たち日本医療器は、皆様に信頼して頂ける商品提供と
安心をお届け出来るサービスを常に目指しています

■医療　■開業支援　■動物医療

お気軽にお問合せください　https://j-md.co.jp/　mail@j-md.jp

東北営業所　〒981-3125　宮城県仙台市泉区みずほ台13-14-101　022-346-0515　028-611-1598

本社　〒320-0851　栃木県宇都宮市鶴田町1909-9　028-611-1684　028-611-1598

各営業所　茨城営業所　群馬営業所　北海道営業所

宮城県獣医師会の皆さまへ特別なご案内

対象のボルボの新車を、車両本体価格より 最大11%OFF でご購入いただけます。



Dog Accessory

愛犬にも安全を



ドッグゲート ＊写真は EX90 でイメージです。

ドッグゲートにはロックハンドルが付いています。ドッグケージをロックしたままテールゲートを開けて、愛犬を外に出すことなく新鮮な空気を取り込むことが可能です。



リアシートペットカバー

大型犬、多頭の乗車が可能なフルサイズ、隣に飼い主が座れる小中型犬用のハーフサイズ。
素材は高級感ある、汚れに強い合成皮革。飼い主とのアイコンタクトにも配慮され、メッシュ窓や底板クッション、乗降用フラップもあって、愛犬も快適、安心、便利です。

ドッグハーネス

ハーネスをシートベルトに装着して使用する愛犬用シートベルトです。
万一の急停車時に、愛犬が前方に投げ出されてしまう危険を防ぎます。

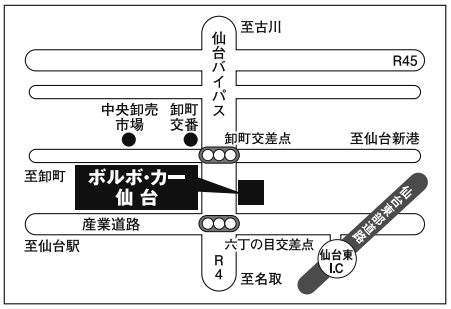
Sサイズ(-15kg)／Mサイズ(15-30kg)／
Lサイズ(30-55kg)／XLサイズ(-60kg)



［掲載内容について］●写真はイメージです。●写真は海外仕様。日本仕様は右ハンドルになります。また、一部オプション/アクセサリー装着車となります。●表示価格はメーカーオプション/アクセサリーの価格、税金、保険料、登録の諸費用、リサイクル料金を含まない車両本体価格であり、参考価格です。消費税は表示価格に含まれます。●販売価格はボルボ・ディーラーが独自に定めておりますので、お問い合わせください。●記載の内容は、2026年8月現在のものであり、予告なく変更される場合があります。●一部対象外のモデルもございます。詳しくはボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

ボルボ・カー 仙台

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8-65
TEL : 022-288-6751
営業時間 / 10:00~18:00
定休 / 月曜日（月曜祝日の場合は翌日休業）



新人紹介

宮城県獣医師会に入会して

●名　　前　一　條　俊　浩

●抱　　負

このたび，宮城県獣医師会に新規（再）入会いたしました一條俊浩です．平成25年までNOSAI宮城で家畜診療に従事し，その後13年間，岩手大学で産業動物分野の学生教育および社会人教育に携わってきました．本年度より，再び宮城県獣医師会の一員として活動いたします．現在は株式会社ライブストックマネージメントサービスを設立し，農場HACCP主任審査員の資格を生かして，畜産農場の衛生管理と生産性向上を支援していきたいと考えております．どうぞよろしくお願いいたします．

株式会社ライブストックマネージメントサービス

獣医師　一條俊浩



●名　　前　矢　守　　凜

●抱　　負

令和８年４月より宮城県東部家畜保健衛生所に勤務しております，矢守凜と申します．東京都出身で，東京農工大学共同獣医学科を卒業しました．

卒業後は動物検疫所に勤務し，空港や港で動物や畜産物の輸出入検疫などに携わってきました．そのうち約２年間は仙台空港で勤務しており，今回数年ぶりに宮城県で働くこととなりました．

現在は防疫班に所属し，牛・豚・鶏などの家畜衛生に関する業務に携わっています．これまでとは仕事の内容も大きく変わり，新たに経験することも多いですが，周囲の方々に教えていただきながら，少しずつ知識や技術を身につけているところです．

趣味は温泉旅行と大相撲観戦です．休日には温泉に出かけてのんびり過ごすことが好きです．宮城県には以前住んでいたものの，まだ訪れたことのない場所も多いので，これから時間を見つけて県内各地を巡ってみたいと思っています．

今後ともどうぞよろしくお願いいたします．

●名　　前　鳥　越　　歩

●抱　　負

初めまして．本年度より宮城県農業共済組合に勤務しております，鳥越歩と申します．神奈川県出身で，麻布大学を卒業いたしました．

宮城県は初めて暮らす土地ですが，祖母がかつて岩出山に疎開していたことから，よく当時の話を聞いており，以前から親しみを感じておりました．そのようなご縁のある宮城県で，産業動物獣医師としてスタートを切ることができ，大変嬉しく思っております．

現在は牛の診療に同行しながら，現場ならではの知識に触れ，日々新たな発見と刺激を受けております．命を預かる仕事の責任の重さを実感する毎日ですが，先生方から多くを学びながら，一歩ずつ成長していきたいと考えております．獣医師会の一員として，地域の獣医療に貢献できるよう努めてまいりますので，今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます．

●名　　前　保　坂　采　耶

●抱　　負

初めまして．

今年度から宮城県農業共済組合中央家畜診療センター古川支所に配属となりました，保坂采耶（ほさかあや）と申します．出身は神奈川県，出身大学は日本獣医生命科学大学です．大学５年生の時に大動物獣医師の実習に参加し，これまで何気なく口にしていた畜産製品に多くの人が携わり守っていることを実感しました．また，人が生きていく上で欠かせない食に私も貢献したいと思い，大動物獣医師を志すようになりました．そして，宮城ＮＯＳＡＩに実習に来た際に，農家の方々の温かさに触れ，多くの先生方から様々なアドバイスをいただける環境に魅力を感じ，当組合を志望致しました．

現在は，牛の診療について，先生方からご指導をいただきながら，新たな知識を吸収する日々を送っております．積極的に学び，少しでも宮城県の畜産業に貢献できるように努めてまいりますので，よろしくお願いいたします．

●名　　前　小　川　花　奈

●抱　　負

今年度から宮城県農業共済組合県北家畜診療センターに配属になりました小川花奈と申します．出身地は群馬県で，出身大学は酪農学園大学です．大学では病理学研究室に入り，主に馬や牛の解剖・病理検査を行っていました．昨年度まで群馬県県職員として働いていましたが結婚を機に宮城県に引っ越しました．群馬県では家畜保健衛生所や県営の乳牛預託育成牧場に配属し，鳥インフルエンザ等の対応や育成乳牛の管理，ＡＩやＥＴ等の繁殖業務を行っていました．中学・高校では吹奏楽部に入っており，音楽鑑賞も好きで演奏会やライブに行くこともあります．宮城県は仙台牛をはじめ，米や海産物など美味しいものがたくさんあって旬のものを食べるのに忙しいです．まだまだ未熟ですが，精進してまいりますのでよろしくお願いします．

●名　　前　鈴　木　史　花

●抱　　負

鈴木　史花と申します．宮城県加美町出身で，日本獣医生命科学大学を卒業し，今年４月からＮＯＳＡＩ宮城で勤務しております．

加美町で育ったこともあり，幼い頃から牛を身近に感じて生活してきました．通学路に牛がいることも珍しくなく，そんな環境で育ったことがきっかけとなり，次第に牛の獣医師を目指すようになりました．

大学では産業動物臨床学研究室に所属し，富士山の麓にある牧場で研修生として，牛の身体検査や繁殖検診などを行っていました．直腸検査や超音波検査など，実際に牛に触れながら診療について学ぶことができ，大学時代から産業動物診療に携わることを楽しみにしていました．

現在はＮＯＳＡＩ宮城で，４人の同期と切磋琢磨しながら日々の診療に取り組んでいます．まだまだ分からないことやできないことも多いですが，一つ一つの経験を大切にし，先輩方から多くのことを学びながら，少しずつ成長していきたいと思っています．

趣味は謎解きで，休日には謎解きイベントなどに参加しています．また，最近エレキギターを購入し，練習に励んでいます．目標は布袋寅泰さんの曲を弾けるようになることですが，まだまだ技術が足りないため，現在は簡単な曲から練習中です．

これから多くの先生方からご指導いただきながら，地域の酪農・畜産を支えられる獣医師になれるよう努めていきたいと思います．どうぞよろしくお願いいたします．

会　　議

開催年月日					開催場所	行事名
年	月	日	曜	時間		
8	7	2	木	15:30	仙台市　江陽ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ　銀河	公益財団法人日本盲導犬協会仙台訓練ｾﾝﾀｰ　盲導犬ﾕｰｻﾞｰ新ﾕﾆｯﾄ出発式
8	7	3	金	9:15	大河原町　全農宮城県本部仙南畜産ｾﾝﾀｰ　特設会場	第28回仙南地域和牛共進会
8	7	3	金	9:30	登米市　みやぎ登米農業協同組合　南方畜産物集出荷場	第19回登米市畜産共進会
8	7	7	火	14:00	仙台市　本会会館　会議室（WEB併用）	第1回支部長会議
8	7	8	水		仙台市　本会会館　会議室	第4回食鳥検査業務推進会議
8	7	15	水	14:00	仙台市　本会会館　会議室（WEB併用）	第1回獣医師活躍推進委員会
8	7	15	水		書面決議	（一社）宮城県畜産協会　臨時総会
8	7	17	金	14:00	東京都　都市ｾﾝﾀｰﾎﾃﾙ　ｺｽﾓｽﾎｰﾙ	(公社)日本獣医師会　全国獣医師会事務事業推進会議
8	7	22	水	14:00	仙台市　本会会館　会議室	第2回正副会長会議
8	7	23	木	9:30	仙台市　仙台市戦災復興記念館　会議室	NOSAI宮城　家畜診療等技術体験発表会並びに研修
8	7	23	木	14:00	大崎市　ﾊﾞﾚｯﾄふるしんﾎｰﾙ　研修室1・2	宮城県畜産試験場　畜産技術研修会（養豚部門）
8	7	27	月	14:00	仙台市　宮城県行政庁舎　1205会議室	宮城県動物愛護推進協議会
8	7	27	月	21:00	仙台市　ﾘｯﾁﾓﾝﾄﾞﾎﾃﾙﾌﾟﾚﾐｱﾑ仙台駅前　桜	どうぶつﾌｪｽﾀinMIYAGI2026第5回実行委員会
8	8	5	水	9:30	仙台市　本会会館　会議室	第5回食鳥検査業務推進会議
8	8	5	水	12:30	仙台市　ﾎﾃﾙ白萩　高砂の間	（一社）宮城県畜産協会　第4回理事会
8	8	6	木	9:30	涌谷町　㈱ｳｪﾙﾌｧﾑﾌｰｽﾞ宮城事業所　会議室	第2回理事会並びに食鳥処理施設見学
8	8	17	月	13:30	東京都　AP新橋　3階A室	鶏病研究会　第5回養鶏管理獣医師研修会
8	8	24	月	21:00	仙台市　ﾘｯﾁﾓﾝﾄﾞﾎﾃﾙﾌﾟﾚﾐｱﾑ仙台駅前　桜	どうぶつﾌｪｽﾀinMIYAGI2026第6回実行委員会
8	8	26	水	14:00	仙台市　本会会館　会議室（WEB併用）	第2回食鳥・公衆衛生委員会
8	8	27	木	14:00	仙台市　本会会館　会議室（WEB併用）	第1回畜産・家畜衛生委員会
8	8	30	日	8:30	大崎市　大崎市立松山中学校グラウンド　ほか	大崎市9.1総合防災訓練
8	9	4	金	13:00	仙台市　本会会館（WEB会議）	第2回学術・広報委員会
8	9	5	土	8:30	美里町　みやぎ総合家畜市場	宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）
8	9	9	水	9:30	仙台市　本会会館　会議室	第6回食鳥検査業務推進会議
8	9	10	木	11:30	山形県　山形ﾃﾙｻ　2階ﾘﾊｰｻﾙ室	東北地区獣医師大会における運営委員会
8	9	10	木	13:00	山形県　山形ﾃﾙｻ　3階ｱﾌﾞﾛｰｽﾞ	東北獣医師獣医師大会
8	9	10	木	17:15	山形県　山形ﾃﾙｻ　ﾎｰﾙ・ﾎﾜｲｴ	東北地区獣医師大会交流会
8	9	11	金	8:30	山形県　山形ﾃﾙｻ　1階大会議室	獣医学術東北地区学会実行委員会
8	9	11	金	9:00	山形県　山形ﾃﾙｻ　各会場	獣医学術東北地区学会
8	9	11	金	学会発表終了後	山形県　山形ﾃﾙｻ　各会場	獣医学術東北地区学会学会選考委員会
8	9	23	水	11:00	岩沼市　いわぬま葬祭会館　大光殿	中央支部　動物愛護事業　慰霊祭
8	9	26	土	10:00	富谷市　宮城県動物愛護ｾﾝﾀｰ	宮城県動物愛護ｾﾝﾀｰ　ふれあいDAY
8	9	29	火	8:45	美里町　みやぎ総合家畜市場	宮城県総合畜産共進会（乳用牛の部）

支部だより

◎利府町総合防災訓練における同行避難訓練に参加して

令和８年６月14日，青山小学校を会場として利府町総合防災訓練が開催されました．このうち「ペットとの同行避難訓練」については，本会中央支部とNPO法人アナイス宮城山形支部が全面協力して運営を担っており，今回，私も訓練に参加させていただきました．

１　迅速な受入れ体制

訓練会場には，校庭のバックネット付近を活用して工事用プラスチックフェンスで区画された「動物エリア」が設けられ，テント４張が設置されました．役場職員による迅速な設営のもと，中央支部塩釜班が訓練資材やクレートを速やかに搬入し，短時間で受入れ体制を整えることができました．

２　訓練の開始と受付

訓練開始前から参加者が集まり始めたため，関係者による簡潔な打合せを行った後，予定どおり訓練を開始しました．当日の参加実績は以下のとおりです．

・住民25名（徒歩にて来場），犬19頭，猫２頭，関係者14名

受付開始直後はやや混雑が見られたものの，役場職員の円滑な誘導により支障なく進行しました．受付では，以下の対応を実施しました．

・エントリーシート（カルテ）の記入
・防災対策に関するアンケートへの回答
・記録用の写真撮影
・マイクロチップリーダーによる個体確認

３　各種トレーニングの実施

受付終了後，係留トレーニングとクレートトレーニングを体験していただきました．動物看護師やNPOアナイススタッフがインストラクターとなり，トレーニングの手順や家庭での練習方法を説明した後，実際にクレートへ入る訓練を行いました．参加した犬の多くはクレートの利用経験が少ない状態でしたが，ほとんどの個体が抵抗なく入ることができました．一部，クレート内で鳴き続けて飼い主に強くアピールする個体も見られたものの，継続的なトレーニングによって抵抗感は軽減されると考えられます．飼い主にとっても，今後の自主トレーニングへの自信につながる有意義な内容となりました．

４　防災セミナーと濃煙体験

トレーニング終了後には，アナイス宮城山形支部の板谷智子支部長による防災セミナー「飼い主の心構えと備え」が開催されました．防災グッズの活用方法やクレートトレーニングの重要性などについて，具体例を交えながら分かりやすく解説していただきました．さらに，消防署の指導による「濃煙体験訓練」も実施されました．参加者は発煙テント内を実際に歩行し，視界が著しく制限された状況下での避難を体験しました．飼い主がペットとともに安全に避難する難しさを実感できる，非常に貴重な機会となりました．

５　訓練終了

当日は夏日となりましたが，動物用給水設備の設置やミスト付サーキュレーターと大型扇風機の増設など，十分な暑熱対策が講じられたことで，参加動物の体調不良等もなく訓練は無事に終了しました．

６　訓練に参加して

防災には「これが正解」というものはありません．災害の種類や規模，地域特性，気候，家族構成，さらにはライフスタイルによって求められる対応は大きく異なります．そのため，基本的な知識と備えを身につけたうえで，状況に応じて柔軟に判断し行動することが重要です．

利府町では，コロナ禍による中断期間を除き，役場危機管理課主導で総合防災訓練の中にペット同行避難を組入れて継続的に実施しています．毎年会場を変えながら実施するとともに，訓練内容を活かしたペットの災害対策をホームページ（以下URL）で公開し，町民への情報提供と知識の蓄積に努められています．

https://www.town.rifu.miyagi.jp/gyosei/soshikikarasaga-su/seikatu/kankyou/7/1210.html

同町のペット同行避難訓練は，中央支部塩釜班の中川会員・小野寺会員による継続的な助言と活動，さらにアナイスをはじめとする関係機関との緊密な連携によるところが大きいものであると，今回の訓練に参加して改めて実感いたしました．この取り組みをもとに，今後のさらなる防災活動の発展的な展開が期待されます．

（文責：副会長　荻原）

◎令和８年度宮城県・大崎市９．１総合防災訓練への参加

１　訓練の概要

１）日　　時：令和８年８月30日(日)午前８時30分から11時30分

２）主な会場：大崎市立松山中学校校庭及び松山B&G海洋センターなど

３）参加規模：国や県，警察，消防，自衛隊，住民など約1,000人

４）想　　定：大雨で地盤が緩む中でマグニチュード7.2（最大震度６強）の地震が発生したとする総合災害

２　ペット避難確認訓練について

訓練には，大崎市環境保全課，宮城県獣医師会大崎支部及び仙台ペット専門学校が連携し，避難所に併設された一時飼養スペース（仮設テント）において，次の項目について訓練を実施しました．

１）ペット避難周知

①　被災した際にペットとの避難に関する周知パネルの展示

宮城県獣医師会が作成したパネル５枚と大崎市が作成したパネル２枚を展示しました．





②　アンケートの実施

ペット避難に関するチェック式のアンケートをペット飼養者向けとペットのいない人向けの２種類を準備しました．ペットの避難に対する課題や災害への事前準備の状況をそれぞれ，設問を６項目設け，「Yes」or「No」により回答をしてもらいました．回答者には被災した際にペット同行避難への留意事項を記載したチラシ，リーフレットやノベルティグッズを配布しました．

アンケートは，飼い主用で36名，ペットのいない人向け用で33名からの回答を得ました．



（アンケートの実施）

③　防災グッズの展示

仙台ペット専門学校の協力により，ペットとの避難時に必要備蓄品展示を行い，日頃の準備の必要性の周知活動を行いました．



（仙台ペット専門学校による備蓄品展示）

２）実演スペース

①　ペット同行避難を想定したしつけ実演

愛犬をペットケージやキャリーケースに入

れ展示し，日頃のしつけについて実演や助言を行った．

② ペット同行避難受け入れ訓練

仙台ペット専門学校の生徒を避難者として，受け入れ訓練を実施しました．

ⅰ 避難者は「避難所用動物調査表」に飼い主の情報及び避難するペットの情報を記入

ⅱ マイクロチップリーダーによる識別番号確認を確認

ⅲ 内容を確認し，ケージに飼い主と個体を識別とする受付票を交付



（調査表の記入）



（識別番号確認）



（受付票交付）

今回の訓練は，避難所設置管理運営を行う大崎市と大崎支部が初めて連携して実施した訓練でした．

避難を行うペット飼養者に対しては，同行避難時には日頃の備えと心構えが大切な命を守ることにつながるのだとする，周知活動が重要であるとの課題が明らかになりました．

一方，ペットの同行避難を可能とする避難所設置は，大崎市としても課題としているようです．今後，ハード面では避難所となる施設の選定，ソフト面では設置運営体制の構築が必要であり，今回の訓練を踏まえ関係者が協力し災害発生時のマニュアル整備を進めることになります．

最後に，県獣医師会より掲示用パネルの貸し出しと，当日，副会長及び事務局長の２名に，ブースの運営に指導・助言や協力をいただいたことに対して感謝申し上げます．

（文責：大場　実）

お知らせ

【会員の入退会について】

◎令和８年８月６日，第２回理事会において下記のとおり報告，承認されました．
（現在会員数　正会員368名，賛助会員８社）

＜退会者　正会員３名＞

届出年月日	氏　　名	支　部
R 8. 5. 8	荻　野　千　尋	中　央
R 8. 6.12	阿　部　博　行	大　崎
R 8. 6.29	松　田　敬　一	中　央

＜入会者　正会員７名＞

届出年月日	氏　　名	支　部
R 8. 4. 1	鈴　木　史　花	仙　南
R 8. 4. 1	鳥　越　　歩	中　央
R 8. 6.30	大　井　奈　奈	中　央
R 8. 4. 1	保　坂　采　耶	大　崎
R 8. 6.15	一　條　俊　浩	大　崎
R 8. 4. 1	矢　守　　凛	仙　北
R 8. 4. 1	小　川　花　奈	仙　北

職場紹介

Wish Spay Clinic

大崎支部　小川　修平

当院は，行政での勤務経験をきっかけに，昨年末から県内全域を対象とした「猫の不妊去勢手術専門」の動物病院として活動を開始いたしました．トラックに手術設備を搭載した診療車により現地での出張手術が可能なスペイクリニックです．固定施設としての対応はもちろん，状況に応じて現地へ赴くことで，猫の運搬が困難なケースにも柔軟に対応しています．

主に多頭飼育環境の猫や地域猫，保護猫を対象とし，過剰繁殖に起因する地域課題の解決に寄与することを目的としています．猫に関する問題は，目の前の小さな思いやりから始まることが多いですが，猫の世話をすることと同時に，適切な不妊去勢手術をセットで行い，なるべく快適な生活環境を整えることが，殺処分の削減や地域住民との共生に繋がるとの考えのもと活動をしています．

手術はTNRを念頭に置いた術式を採用しており，猫や関係者の皆様への負担を最小限に抑え，現場で完結する医療の提供を目指しています．

今後も地域社会と緊密に連携しながら，不妊去勢手術を通じて「持続可能な人と猫が共生できる地域づくり」に貢献してまいります．皆様の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます．



『みやぎ獣医師』第79巻 令和８年度 総目次

第79巻　第１号

あいさつ　令和８年新年挨拶　公益社団法人宮城県獣医師会　会長　渡邉清博 …… １－２
あいさつ　更なる変革を目指す年に　宮城県知事　村井嘉浩 …… 3
あいさつ　新年のごあいさつ
宮城県農政部畜産課長／宮城県農政部家畜防疫対策室長　鈴木徳彦／髙橋幸治 …… 4
あいさつ　新年のご挨拶　宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課　梶原光弘 …… 5
学術　重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の最新知見
国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　獣医科学部　前田　健 …… ６－10
研究　イソペンタンを用いた凍結切片作成方法の検討
宮城県食肉衛生検査所　岡田珠里亜 …… 11－14
業績ノート　乳肉複合経営農場における牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の摘発事例
宮城県仙台家畜保健衛生所　大関貴大 …… 15－18
症例報告　断趾術を行った黒毛和種繁殖雌牛の感染性蹄関節炎の一症例
NOSAI宮城中央家畜診療センター　竹中雅人 …… 19－21
資料　令和７年度東北地区獣医師大会・獣医学術東北地区学会概要 …… 22－25
広告　㈱アグロジャパン・㈱アスコ・小田島商事㈱・明治アニマルヘルス㈱・
ささえあ製薬㈱・日本全薬工業㈱・MPアグロ㈱・㈱日本医療器・
ボルボ・カー仙台 …… 26－28
新人紹介　高橋美保・長田桃佳 …… 29
会議　10月－12月 …… 30
お知らせ　会員の入退会について …… 33
お知らせ　会員の訃報について …… 33
お知らせ　メール受信設定確認のお願い …… 33
支部だより　大崎支部　第28回OSAKI動物セミナー in大崎市 …… 34－35
支部だより　大崎支部　令和７年度第25回獣医師の日パークゴルフ大会 …… 35
支部だより　仙北支部　気仙沼地区　家庭犬のしつけ方教室 …… 35－36
職場紹介　MPアグロ株式会社　仙台支部 …… 37
職場紹介　にじのはしスペイクリニック宮城分院（大崎市） …… 38
編集後記　真鍋　智 …… 39

第79巻　第２号

総説，講座　子牛の呼吸器病における肺エコーを用いた病変活動性評価に基づく治療の開始および終了判断
北里大学獣医学部獣医学科大動物臨床学研究室　前田洋佑 …… 40－45
症例報告　血管内大細胞型B細胞性リンパ腫が疑われた黒毛和種子牛の一症例
宮城県農業共済組合中央家畜診療センター　丹生早那 …… 46－49
症例報告　モルヌピラビルで寛解が得られた非滲出型猫伝染性腹膜炎の１例
オノデラ動物病院　小野豊佳 …… 50－52
資料　人事異動　宮城県農政部・宮城県環境生活部・宮城県農業共済組合 …… 53－56

資料　宮城県における飼養豚及び野生イノシシの豚熱検査状況
宮城県仙台家畜保健衛生所 …… 57－58
広告　㈱アグロジャパン・㈱アスコ・小田島商事㈱・明治アニマルヘルス㈱・
ささえあ製薬㈱・日本全薬工業㈱・MPアグロ㈱・㈱日本医療器 …… 59－60
新人紹介　加藤　拓・塩浜康太郎 …… 61
会議　１月－３月 …… 62
お知らせ　会員の入退会について …… 63
職場紹介　（公社）宮城県獣医師会食鳥検査センター …… 64－65
編集後記　中田朋孝…… 66

第79巻　第３号

総説，講座　ネコ尿管の線維化メカニズムの解明
北里大学獣医学部獣医学科　小動物第２外科学研究室　岩井聡美 …… 67－75
短報　管内一公共牧場における牛伝染性リンパ腫感染リスク評価に基づく対策と意識醸成の取組
宮城県北部家畜保健衛生所　山本早苗 …… 76－80
症例報告　腹腔鏡下手術により治癒した犬の副腎皮質機能低下症併発の先天性門脈体循環
シャントの１症例　ウイル動物病院グループ　堀内博史 …… 81－84
随想　私の出会った先人の記録　荻原康則 …… 85－86
広告　㈱アグロジャパン・㈱アスコ・小田島商事㈱・明治アニマルヘルス㈱・
ささえあ製薬㈱・日本全薬工業㈱・ＭＰアグロ㈱・㈱日本医療器・
ボルボ・カー仙台 …… 87－89
会議　４月－６月 …… 90
支部だより　中央支部　名取市総合防災訓練において同行避難訓練を実施 …… 91
お知らせ　会員の入退会について …… 92
お知らせ　令和８年度第78回定時社員総会開催報告 …… 93－94
編集後記　及川伸代 …… 95

第79巻　第４号

総説，講座　下水疫学調査の社会実装に向けた取り組み
山梨大学国際流域環境研究センター　原本英司 …… 96－100
短報　肉用鶏で発生した鶏アスペルギルス症における病理学的所見
宮城県仙台家畜保健衛生所　岸田竜馬 …… 101－105
症例報告　ホルスタイン種育成乳牛における瀰睛虫症の一症例
宮城県農業共済組合　県北家畜診療センター　平山　匠 …… 106－108
症例報告　破折により根尖周囲病巣を認め，歯科治療を実施したカリフォルニアアシカの２症例
ぽらべあ動物病院　中田朋孝 …… 109－114
資料　令和７年度家畜衛生関係事業実績の概要　宮城県農政部家畜防疫対策室 …… 115－119
資料　令和７年度と畜検査及び狂犬病予防事業等の概要
宮城県環境生活部食と暮らしの安全推進課 …… 120－126
資料　令和７年度家畜共済事業実績　NOSAI宮城　第二事業部家畜課 …… 127
広告　㈱アグロジャパン・㈱アスコ・小田島商事㈱・明治アニマルヘルス㈱・

ささえあ製薬㈱・日本全薬工業㈱・ＭＰアグロ㈱・㈱日本医療器・
ボルボ・カー仙台 …… 128－130
新人紹介　一條俊浩・矢守　凜・鳥越　歩・保坂采那・小川花奈・鈴木史花 …… 131－133
会議　７月－９月 …… 134
支部だより　中央支部　利府町総合防災訓練における同行避難訓練に参加して …… 135
支部だより　大崎支部　令和８年度宮城県・大崎市9. 1総合防災訓練への参加 …… 136－137
お知らせ　会員の入退会について …… 138
職場紹介　Wish Spay Clinic …… 139
編集後記　佐藤　繁 …… 144


たのしくてためになる、人とどうぶつたちのお祭り
どうぶつフェスタ
in MIYAGI 2026
人と動物のよりよい絆のために、たのしみながらちょっと勉強しよう
日時:2026年11月8日(日)
10:00～15:30
会場:あすと長町杜の広場公園
フェイスブックはこちら
インスタグラムはこちら
公式HPはこちら
からあげ
からあげ
わたがし
わたがし
イラスト：岡崎マサヒロ
ペット同伴で来場いただく際の注意事項
●ご来場の際には、必ずリードを装着し、飼主のマナーを守りましょう。●首輪には鑑札、名札などをつけましょう。●会場は大変混みあいます。動物が苦手な方や、小さなお子様も来場されますので、不測の事態を避けるためにも、飼主が制御できる範囲内のペット、頭数でご来場ください。　●排尿、排便については、決められた場所で行い、飼主の責任で持ち帰りましょう。●会場内での事故については、責任を負いかねます。お連れの動物は飼主様の責任で対応願います。
主催：公益社団法人 宮城県獣医師会／公益社団法人 仙台市獣医師会　　後援：宮城県／仙台市
協賛：宮城トヨタ自動車株式会社、協同組合 仙台獣医師会総合どうぶつ病院・夜間救急動物病院
宮城県地域畜産振興対策協議会、宮城県食肉消費対策協議会、犬潤 ニャンワンクラブ 、
(株)V＆P、東北ミサワホーム(株)、(株)ダスキン、DOG CABIN、共立製薬(株)、ロイヤルカナン ジャポン(同)、
日本ヒルズ・コルゲート(株)、(株)アスコ、日本全薬工業(株)、(一社)Team HOPE、蔵王移住相談室、菅野商事(株)、
(株)メディカルスペース、TeamHOPE、クレイン仙台泉パークタウン、 仙台市海岸公園馬術場、伊豆沼農産、
ベーリンガー インゲルハイム アニマルヘルス ジャパン(株)、東北酪農青年女性会議
問い合わせ先　（公社）宮城県獣医師会　022-297-1735　anifesu@miyaju.jp

編　集　後　記

第79巻第４号をお届けします．第４号では，講座として山梨大学国際流域環境研究センターの原本英司一先生に「下水疫学調査の社会実装に向けた取り組み」について，分かりやすく解説して頂きました．また，短報として仙台家畜保健衛生所の岸田竜馬先生，また，症例報告としてNOSAI宮城県北家畜診療センターの平山　匠先生，ぽらべあ動物病院の中田朋孝先生に寄稿して頂きました．いずれも極めて貴重な症例を紹介して頂いた論文です．原稿をお寄せ頂いた先生方，そして編集を担当して頂いた委員の皆様に感謝いたします．

９月から10月にかけて全国各地で地区三学会が開催されています．東北地区においても，９月10～11日に山形市で開催されました．各地の産業動物獣医学会での発表を拝聴していると，COVID-19の影響で学会開催さえも危うく，発表内容もやや停滞していた頃に比べて，かなり改善されてきており，臨床的価値の高い発表も見られるようになりました．一方で，まだデータの蓄積が少なく，結果の過大解釈になっている発表も散見されました．そのような発表に対して参加者は，しっかりと問題点を指摘し，質疑応答で十分に議論することが重要なことと思われます．

そもそも獣医師の自己研鑽においては，学会発表や誌上報告によって自らの考えを披露し，それに対して第三者（学会の参加者や雑誌の読者）から評価・批判してもらうことが最も有効な方法です．これら自己研鑽の積み重ねの結果として，自らの意識改革が成し遂げられるものと考えています．

「みやぎ獣医師」は，前記のような意見発表の場として活用して頂ければ幸いです．会報の内容については，皆様に読んで頂けるような内容の濃い記事を掲載していきたいと考えていますので，引き続き皆様の積極的な投稿をお待ちしております．

（文責　佐藤　繁）

＜学 術 ・ 広 報 委 員＞

◎佐　藤　　繁　○工　藤　　剛
高　森　広　典　　及　川　伸　代
中　田　朋　孝

（◎ 委員長　○副委員長）

題字：元宮城県知事　山　本　壮一郎

〒983－0832　宮城県仙台市宮城野区安養寺３丁目７－２
公益社団法人 宮 城 県 獣 医 師 会
TEL　022－297－1735
FAX　022－297－1737
http://miyaju.jp（パスワード：3810）
e-mail:jimukyoku@miyaju.jp
発行責任者　渡　邉　清　博
編集責任者　佐　藤　　繁
印　刷　所　㈲サトー孔版印刷
TEL　022－223－3321

